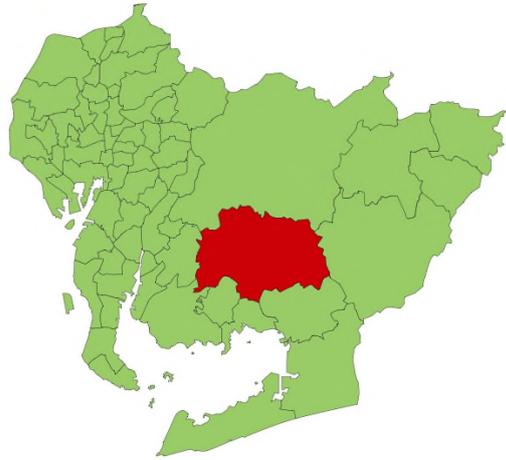


## ルネふた(ゴールド)

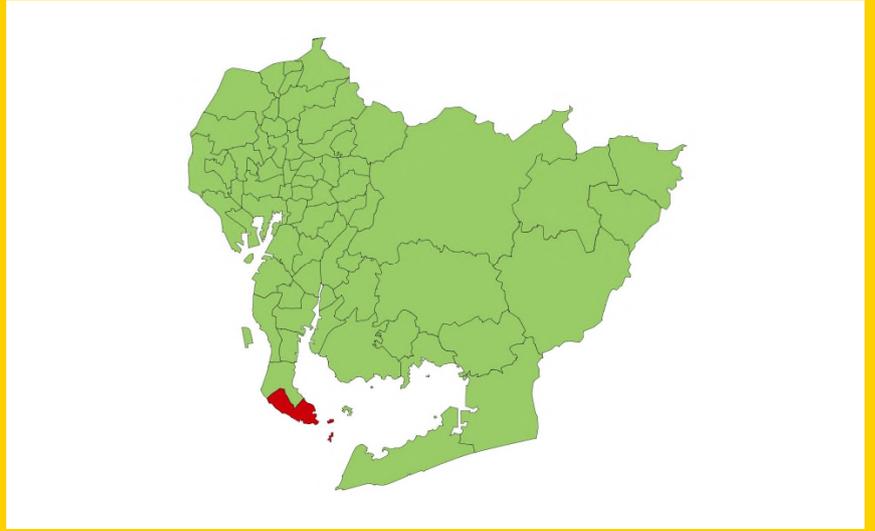


## デザインの由来

独特な感性と多彩な才能で、今や世界中に広がる日本独自の「Kawaii」文化の原型を作ったアーティスト、内藤ルネは岡崎市の羽根町の出身です。蓋の絵柄には1959年、『ジュニアの日記』の表紙を飾ったルネガールと日本初のパンダキャラクターである「ルネパンダ」、背景には代表的なモチーフのサンフラワーがデザインされています。

マンホールサミットin岡崎と下水道事業100周年、内藤ルネデビュー70周年を記念して、内藤ルネ著作権元のRIVER STONE HOLDINGS社から岡崎市に寄贈された金色のマンホールです。





### デザインの由来

南知多町（日間賀島）は愛知県の有人離島3島のうちのひとつであり、周囲6.6km、1番高いところでも30m程の平らな島です。

タコ（多幸）とふぐ（福）の島と呼ばれ、その名のとおりタコやふぐが美味しく味わえます。タコのモニュメントやタコを模した駐在所、タコ・ふぐのマンホールが島内随所であり、サイクリングや散歩での島内一周がおすすめです。



タコとフグのマンホール



### デザインの由来

南知多町（日間賀島）は愛知県の有人離島3島のうちのひとつであり、周囲6.6km、1番高いところでも30m程の平らな島です。

タコ（多幸）とふぐ（福）の島と呼ばれ、その名のとおりタコやふぐが美味しく味わえます。タコのモニュメントやタコを模した駐在所、タコ・ふぐのマンホールが島内随所があり、サイクリングや散歩での島内一周がおすすめです。



タコとフグのマンホール



### デザインの由来

1987年に市制70周年を記念して、乙川南部地区用にデザインしました。この蓋に描かれているお城は、江戸幕府を開いた徳川家康公が生を受けた場所として知られる「岡崎城」です。

そして、前面には、全国桜の名所百選に選ばれた岡崎公園の「桜」、背景には岡崎の夏の風物詩でもある伝統の「三河花火」を描きました。

いにしえより東西交通の要衝として栄えた岡崎市。その悠久の歴史と伝統に育まれた魅力たっぷりのデザインになっています。

ちなみに、凹凸を反転したカラーデザインのマンホール蓋は、乙川リバーフロント地区（岡崎城周辺）限定で、2016年より設置されています。



岡崎城と桜



三河花火

## 愛知県流域下水道



■：流域関連公共下水道実施市町

## デザインの由来

愛知県の鳥コノハズクと愛知県の花カキツバタに水の循環をイメージし、きれいな水のおかげで、動植物が住みやすい環境になりますようにと願いを込めてデザインされ、愛知県流域下水道のマンホールとして2018年に設置されました。

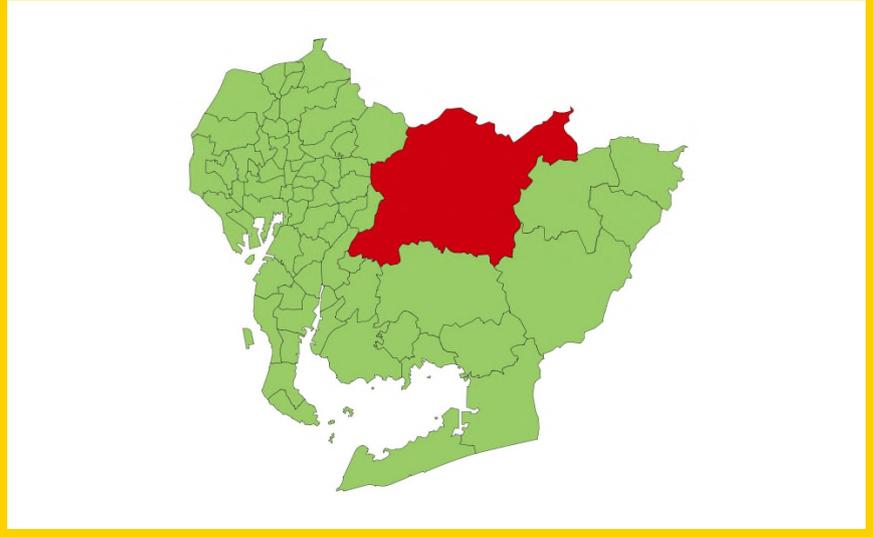
コノハズクは、声のブッポウソウの別名を持つフクロウ科の渡り鳥です。カキツバタは、在原業平が知立市八橋でカキツバタの5字を詠み込んで「唐衣着つつなれにしつましあればはるばる来ぬる旅をしぞ思ふ」（伊勢物語）とうたったと伝えられています。幸運を呼ぶ鳥と言われているコノハズクと幸運が来るといふ花言葉を持つカキツバタで縁起が良いデザインです。



コノハズク



カキツバタ



### デザインの由来

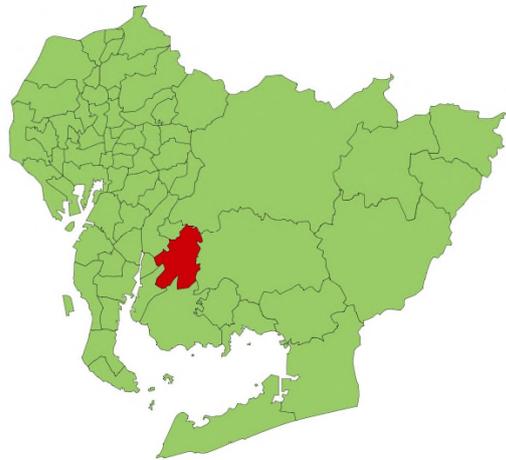
2018年から始まった下水道の雨水マンホール更新事業のために制作されたマンホール蓋です。蓋には、建築家・故黒川紀章氏が設計した「豊田大橋」や豊田中央公園内にある球技専用の「豊田スタジアム」を中心に、市街地を流れる矢作川と、市の木である「けやき」を配置しました。豊田スタジアムは、Jリーグ・名古屋グランパスのホームスタジアムでもあり、各種イベント会場としてまちの賑わいの中心になっています。世界をリードするものづくりの中核都市としての顔を持つ一方、市域を貫く矢作川、豊かな森林や田園が広がる恵み多き水と緑のまちを表現しました。



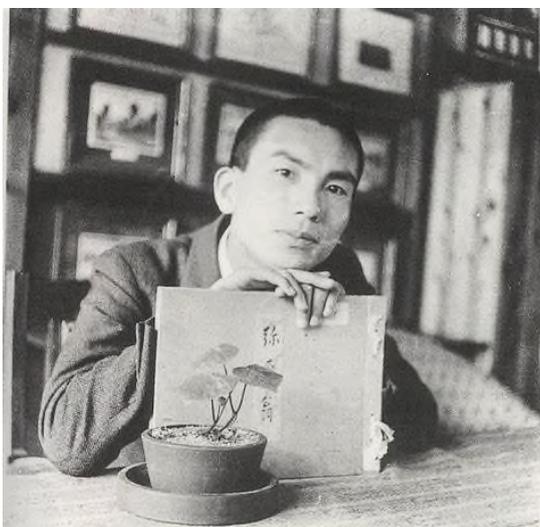
豊田大橋



豊田スタジアム



**デザインの由来** 童話「ごんぎつね」などで知られる作家「新美南吉」は、昭和13年から5年間、安城で教師として勤めるかたわら、数々の作品を創作しました。このマンホール蓋は、南吉の童話「花のき村と盗人たち」の一場面を描いたものです。この物語は、花のき村を訪れた盗人たちが、少年から信用されたうれしさに正しい心を取り戻しますが、実は、その少年はお地蔵様であったというお話です。物語の舞台とされる安城市の花ノ木町周辺では、現在、図書情報館などの複合施設「アンフォーレ」（平成29年6月オープン）を拠点としたまちづくりを進めており、このデザインのマンホールを使用しています。



新美南吉



アンフォーレ



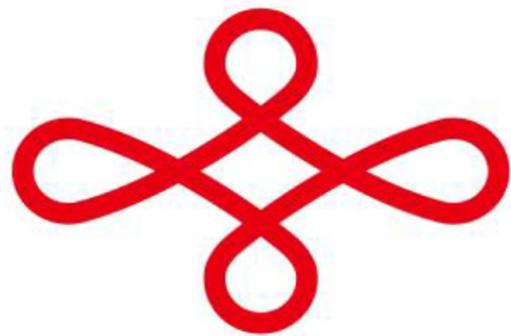
### デザインの由来

西尾市の市章「結び井桁」を中央に、市の木「くすのき」が描かれており、西尾市の特産品の「抹茶」を思わせる緑色と黄緑色で鮮やかに彩っています。

「くすのき」は公募により市の木に選定され、緑豊かな美しいまちづくりを目指そうという願いが込められています。「結び井桁」は旧西尾城主大給松平氏の道中目印として使用されていたものと伝えられ、整然とした市街と市民の団結を象徴しています。西尾の抹茶は全国有数の生産量を誇り、上品な香り、おだやかなうまみとコクが特徴で、品評会でも高く評価されています。



市の木「くすのき」



市章「結び井桁」

9 / 151

こうた  
幸田町

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

この蓋には、幸田町の豊かな自然を象徴した花「つばき」が描かれています。中心には、町名「こうた」の頭文字「K」が図案化された町章が描かれ、町民の円満融合と団結を表すデザインとなっています。



町の花「つばき」



### デザインの由来

市制施行70周年記念事業として一般募集したデザインをもとに製作したマンホール蓋です。上部には夏の風物詩となっている万燈祭と全国でも有数の来場者数を誇る刈谷ハイウェイオアシス、下部には市の花であるカキツバタと名産品であるスイカをデザインしました。万燈祭は、万燈と呼ばれる高さ約5メートル、重さ約60キロにも及ぶ巨大な張子人形を笛や太鼓の音に合わせて若衆が一人で担ぎ舞い踊る様子から「天下の奇祭」と呼ばれ、愛知県の無形民俗文化財に指定されています。このカラー蓋は、市内の公園や駅前広場などに設置しています。刈谷市の名所巡りと併せて探してみてください。



万燈祭(まんどまつり)



刈谷ハイウェイオアシス



### デザインの由来

知立市の花「かきつばた」がデザインされた汚水のマンホール蓋です。市内の八橋町は、平安の歌人・在原業平が「からころも きつつなれにし つましあれば はるばるきぬる たびをしぞおもふ」と、句頭に「かきつばた」の5文字を入れて詠むなど、伊勢物語にも登場するかきつばたの名勝地として知られています。雨水のマンホール蓋には、この業平の詠んだ和歌が蓋の中央にデザインされています。また尾形光琳の国宝「燕子花図（かきつばたず）」にも描かれ、樋口一葉の肖像が描かれた五千円札のデザインにも使われています。

見頃となる、4月下旬から5月上旬には、全国から多くの観光客が訪れます。



かきつばた



燕子花図屏風(複製)

12 / 151

## みよし市

全国

岡崎市

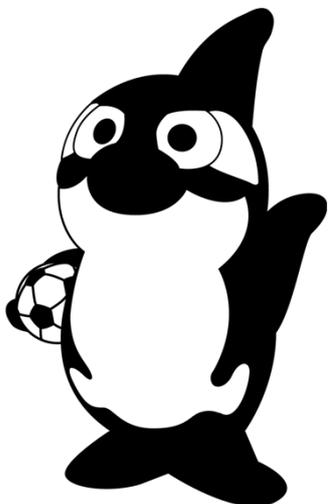
愛知県

ゆかり



## デザインの由来

みよし市をホームタウンとする名古屋グランパスとみよし市がコラボしたマンホール蓋で、オフィシャルマスコットキャラクターである「グランパスくん」を前面に配置しました。名古屋グランパスは、サッカーJリーグ創設当初から活躍している「オリジナル10」のチームでもあります。また、2017年2月にみよし市と株式会社名古屋グランパスエイトは、地域社会における文化、教育、まちづくり等を連携して推進する相互支援協定を締結しました。



グランパスくん



フラッグ

13 / 151

とうごう  
東郷町

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

昭和40年代、宅地開発の進行により緑が少しずつ失われる中、郷土の自然を守り、緑を取り戻し、豊かで潤いのあるまちにしたいとの機運が盛り上がり、多くの応募の中から町の花を「アヤメ」、町の木を「モッコク」と制定しました。このマンホールのデザインは、公募により町内中学校の生徒から応募されたもので、町の花「アヤメ」がちりばめられています。



町の花『アヤメ』



町の木『モッコク』



### デザインの由来

鉄鋼業が盛んな碧南市でマンホールを趣味とする仲間が集まり、2010年「夢まる企画」を結成しました。鮮やかな紅色で姿・形が美しく、糖度が高い人参「碧南美人」をモチーフとしたマンホールデザインは、市内の小中学生から公募し、自主製作したものです。

同様のコンセプトで製作したマンホールは、碧南市役所、碧南市議会の協力を得て名鉄三河線碧南駅や碧南市海浜水族館に設置したり、江戸寿し前に展示しています。足をお運びいただき、碧南の子供たちがデザインした夢いっぱいマンホールを、ご覧いただければ幸いです。



江戸寿し前の展示蓋



海浜水族館設置蓋とモチーフの観覧車

15

151

おおぶ  
大府市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



**デザインの由来** 「健康都市おおぶ」をPRするキャラクター「おぶちゃん」を中央に描き、周囲に市の花クチナシをあしらったデザイン蓋です。大府市は古くから健康づくりのさかんなまちで、市民の公募から生まれた「おぶちゃん」は「健康都市おおぶ」の旗振り役です。

「おぶちゃん」の体の形は大府市の地形を表しており、明るい黄色は元気のしるしです。タスキは未来への健康の橋渡し役を表しています。市内の子供たちや高齢者の方々は、「おぶちゃん体操」で楽しみながら身体を動かして、元気モリモリです。大府市の豊かな自然環境とまちの発展を、この「おぶちゃん」が見守ってくれています。



おぶちゃん



市の花 クチナシ

16 / 151

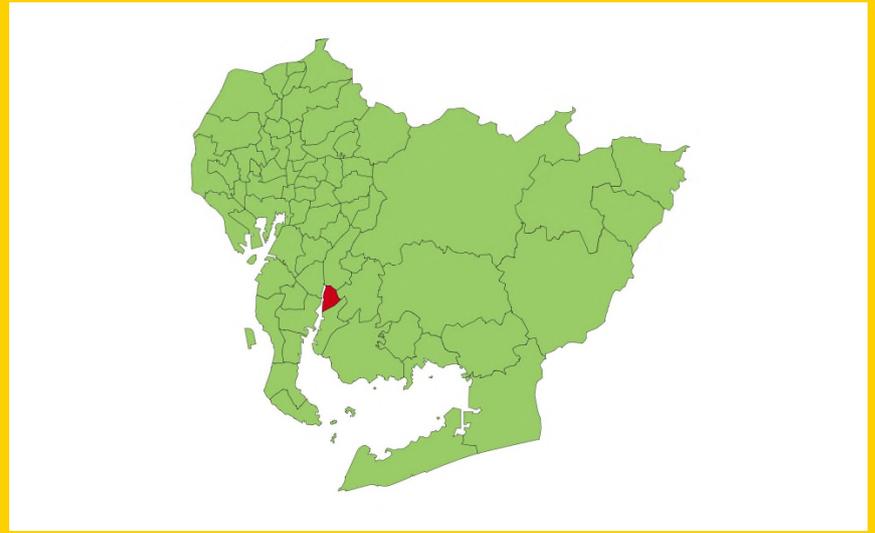
たかはま  
高浜市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

高浜市を代表する伝統的な祭事「おまんと祭り」の様子をデザインしたマンホール蓋です。丸太で組んだ円形の馬場の中で、法被に地下足袋姿の若者が疾走する馬に跳びつき、人馬一体となって駆け抜けていく雄姿を描きました。

この祭礼の歴史は古く、江戸時代の後期に雨乞いの祈願・御礼として「馬」を奉納したのが始まりとされます。春日神社で行われるおまんと祭りは高浜市無形民俗文化財に指定されており、その規模は市内最大級です。

地元の人々が「おまんと」と呼んで愛するこの奇祭を、皆さんもぜひ体感してみてください。きっと手に汗握る大迫力の感動が待っているはずです。



おまんと祭り（写真提供：高浜おまんと祭り保存会）

# 豊川流域下水道



■：流域関連公共下水道実施市町

## デザインの由来

デザインマンホールには、豊川流域下水道の供用開始40周年を記念して全国から募集したキャラクター“とよっち”と、従来からのキャラクター“とっと君”の2体を中央に配置しています。キャラクターの下に流域4市（豊橋市、豊川市、蒲都市、新城市）の代表的なデザインマンホールを並べ、下部には豊川流域下水道が1980年から始まったことを表現しています。

水をイメージした淡い水色を背景とし、4市が参加している豊川流域下水道をアピールするデザインとなっています。



とよっち



とっと君



### デザインの由来

1992年に都市景観の一環としてデザインしました。  
国の天然記念物に指定されている、観光蒲郡のシンボル「竹島」をモチーフに、竹島と竹島園地を結ぶ「竹島橋」、蒲郡の豊かな自然を表現して「海とカモメ」を描きました。

竹島をはじめとする蒲郡の名所は、自然との共存が欠かせないものばかりです。観光都市として都市景観を足元から整えるだけでなく、この美しい海を次の世代に残すという強い決意が込められて製作されたマンホール蓋です。

また、今年度に入り、竹島園地内にカラーマンホール蓋を設置しましたので、ぜひ見に来てください。



竹島と竹島橋



竹島と竹島園地



### デザインの由来

このマンホール蓋は、豊川市の下水道施設PRの一環として2015年に初めて設置されました。豊川市宣伝部長・いなりんを囲むように市の花「サツキ」と市の木「クロマツ」、市内の春の風物詩「桜」がデザインされ、市内を流れる川をイメージした市のロゴマークが配置されています。

いなりんは「キツネ」と「豊川いなり寿司」の合体キャラクターで、豊川市の宣伝部長を務め日本一部下の多いキャラクターとしても知られています。カラー版の蓋は初回5基制作し、市民や観光客が多く訪れる場所に設置しています。



© いなりん



桜と佐奈川

20 / 151

とよはし  
豊橋市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

豊橋市政90周年を記念して1996年に制作した3種類のデザインマンホールの一つです。豊橋市が世界に誇る国際貿易港「三河港」を中心に「人・緑・港・街」をデザインしました。

三河港は日本の中心に位置する海上輸送の拠点であり、完成自動車の輸入台数・金額はともに日本一（2022年時点）です。また、市民の憩いの場の一面も有し、毎年7月に開催される「みなとフェスティバル」、11月の「みなとシティマラソン」などは大変な賑わいを見せます。

本マンホール蓋は、分流式の汚水用と合流式に使用しています。



完成自動車輸入台数・金額全国1位



みなとシティマラソン



### デザインの由来

中央に咲く花が「花かつみ」、その葉に止まっているのが「ハイケボタル」です。「花かつみ」は、「万葉集」や松尾芭蕉の「奥の細道」にも記載があり、探し求めても見つからない幻の花とされてきました。一時は絶滅したとされていましたが、町内で自生の1株が発見され、保存活動により約2,500株まで繁殖しています。「ハイケボタル」は、梅雨の時期に町内の水田で見られます。環境変化に敏感で、「自然環境のバロメーター」として、淡い光で飛ぶ野生のホタルの生育を守る活動を行っています。これら、自然豊かなまちのシンボルを次世代にも引き継げるよう下水道の普及促進に努めています。



花かつみ



ハイケボタル

22 / 151

とこなめ

# 常滑市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

常滑市の公共下水道事業が開始される数年前、公共下水道の工事が開始された頃に、常滑市の花「サザンカ」にちなんでデザインしました。

この市の花（サザンカ）は、緑と花のある美しいまちづくりのために、アンケート調査の結果に基づき、昭和56年2月に選定されました。

サザンカは花の少ない冬季に咲き、花期は長く、強い季節風や潮風にも耐える花木です。庭木や生け垣などと用途も広く、多くの人に親しまれています。



サザンカの花



## デザインの由来

半田市は、下水道汚水整備事業に着手した1986年を「汚水整備元年」に制定しました。これに併せ、「市民に親しまれる下水道」のシンボルとして、雨水・汚水2種類のマンホール蓋のデザインを公募により決定しました。

雨水マンホール蓋のデザインは、中央に市章と「半田」の文字を図案化した模様を配し、まわりには水たまりを生き生きと泳ぐ「みずすまし」が描かれています。このデザインは、市章と「半田」の文字が、明るくたくましい半田市民の姿を「みずすまし」が美しい水を連想させ、清潔で住みよい豊かな街のイメージを表現するものとなっています。



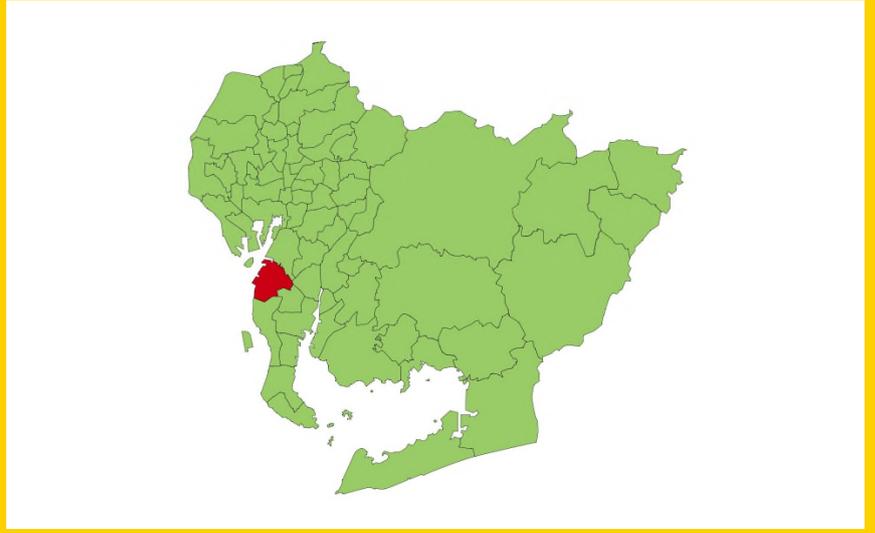
市章



カラーマンホール蓋はクラシティ北側に設置(名鉄知多半田駅前)



R5.10/28・10/29に  
6年ぶりの「はんだ山車まつり」  
を開催。会場は名鉄知多半田駅下車、  
徒歩10分。



## デザインの由来

知多市の花である梅がデザインされたマンホール蓋です。佐布里（そうり）地区には、25品種約6000本の梅の木が植えられており、毎年美しい花を咲かせます。

中でも「佐布里梅」は、この地区で生み出された知多市を代表する品種であり、2019年には天然記念物として市の文化財に指定されました。

このデザインマンホール蓋は梅の館（佐布里緑と花のふれあい公園）がある佐布里地区に設置されています。



佐布里梅の花



佐布里梅標準木

25 / 151

ふそう

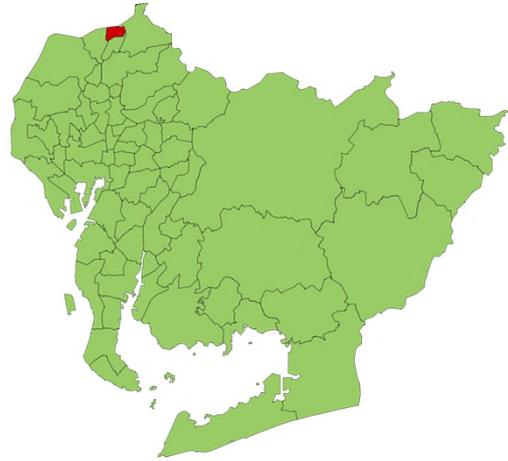
## 扶桑町

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

扶桑町の無形文化財である「儀典用端折長柄傘」を中心に描きその周りを町の花「ひまわり」をモチーフにしたデザインにしています。「儀典用端折長柄傘」は骨の端を内側に折り曲げた長柄の傘で、その昔、公家や僧侶、馬上の貴人などに後ろからさしかけたり、広く利用されていたものです。町の花「ひまわり」は平成4年町制施行40周年を記念して、町民より町の花を募集し「ひまわり」と決められました。「太陽とみどりと健康のまち、アメニティ豊かな生活都市」を掲げ、明るい町づくりを目指すわが町ふそうのシンボルにふさわしい花として制定されたものです。



儀典用端折長柄傘



ひまわり

26 / 151

ながくて  
長久手市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

中央に市章、その周囲に市の花「サツキ」と市の木「カエデ」をデザインしたマンホール蓋です。平成8年、長久手市の下水道が供用開始したのを機に製作しました。市章は2つの輪の結びつきで融和を表現し、左右に伸びた円の幅が発展と飛躍を表しています。

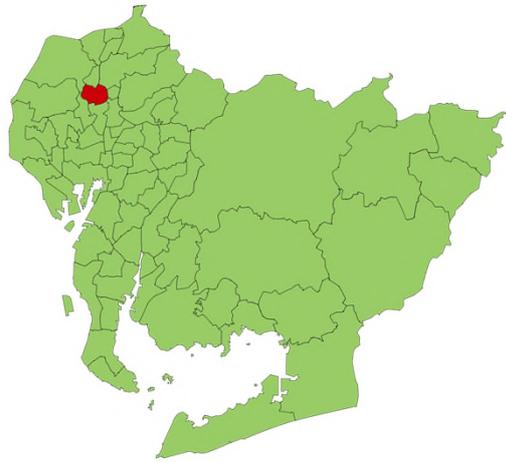
市の花と木は「豊かな緑と花咲く町」のシンボルとして制定しました。いずれも、長く市民から愛されてきた存在です。平成17年には、自然の叡智をテーマとする日本国際博覧会（愛・地球博）の会場となった長久手市。将来に向けて「田園と都市との融和」をめざす中、その一翼として下水道に期待される役割も大きくなっています。



カエデ



サツキ



### デザインの由来

愛知県北名古屋市は、平成18年3月に師勝町と西春町が合併して誕生しました。本市は名古屋市に隣接していることから、高度経済成長を機に人口流入によって発展してきましたが、今も水田の広がる自然豊かな田園都市です。

このマンホール蓋のデザインは、「快適な水環境」をテーマにデザインを公募し、約100点の中から選ばれました。水田でよく見られるようなザリガニやカエル、ゲンゴロウ、メダカがユニークに描かれており、子供から大人まで親しみの持てるデザインとなっています。都市の中に自然が調和しているかのように、水辺の生き物で表現しているマンホール蓋となっています。



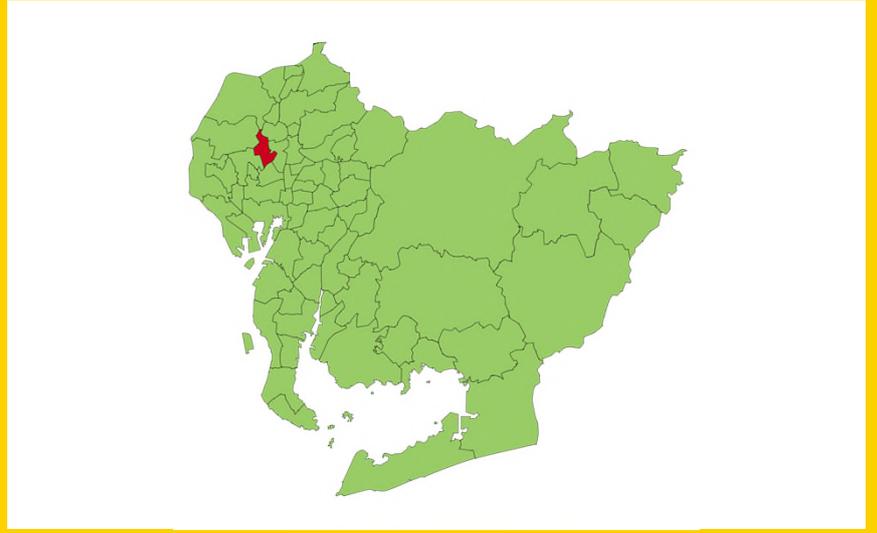
田園風景



ザリガニ



メダカ



## デザインの由来

この蓋に描かれているものは、上から順番に旧春日町の花であった「サクラ」、中心に描かれているものは「五条川」、下に描かれているものは「宮重大根」とそのイメージキャラクターである「宮重ダイちゃん」です。

平成21年に合併し春日町は清須市となり、このデザインのマンホールは設置されなくなりました。現在、清須市春日夢の森付近等に100個程度設置されておりレアな蓋となっています。



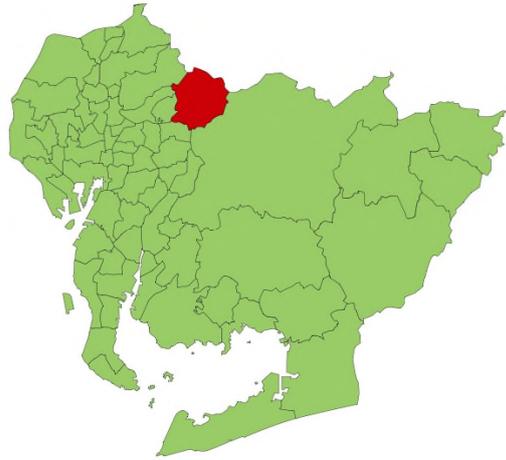
五条川とサクラ



モニュメント



宮重大根



## デザインの由来

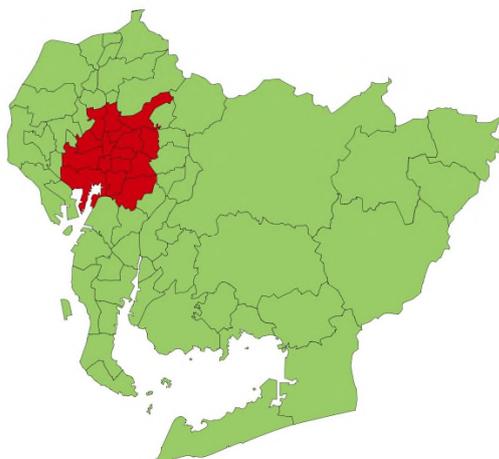
千年以上の歴史を有する瀬戸焼の伝統的な絵柄「麦藁手」「吊るし柿」「馬の目皿」、瀬戸ならではの風景「窯垣」「赤津瓦」「本業タイル」、市の花「ツバキ」と「ジブリパークのある愛知」のロゴマークを組み合わせたデザインです。瀬戸市は2017年にやきものの産地として日本遺産の認定を受けました。古い窯道具を積み上げて作られた美しい幾何学模様の窯垣は、全国でも瀬戸でしか見られない景観です。また、瀬戸市は愛・地球博の開催地として、その理念を次世代に継承するジブリパークを応援しています。自然豊かな里山、ものづくり文化が残る瀬戸市をゆっくりと散策してみてください。



馬の目皿と麦藁手の瀬戸焼



窯垣



## デザインの由来

2012年（平成24年）に、名古屋市の下水道供用開始100周年を迎えたのを記念して製作したマンホール蓋です。

この蓋に描かれている橋は、名古屋市の中心部を流れる堀川に架かる「納屋橋」です。納屋橋は、レトロな造りが美しく、400年以上流域の発展を見守り続けた堀川のシンボリックな橋となっています。

この納屋橋を、みなさまと名古屋市上下水道局との「架け橋」、現代から未来への「架け橋」としてイメージし、デザインしました。

名古屋市内に、このデザインのカラー版は12か所、彩色されていないものは約100か所設置されています。



納屋橋



水の歴史資料館（マンホールカード配布中）

31 / 151

かにえ  
蟹江町

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

蟹江町のロゴマーク「かに丸くん」をはじめ、町の花「ハナショウブ」、木「キンモクセイ」、鳥「ヨシキリ」がデザインされたマンホール蓋です。昔の蟹江は南部が海に面した入り江で、葭が茂り、多くの蟹が生息していたことから「蟹江」と呼ばれるようになったと伝えられています。今でも町には大小6つの河川が流れ、その風景は水郷のまちを象徴する趣があります。

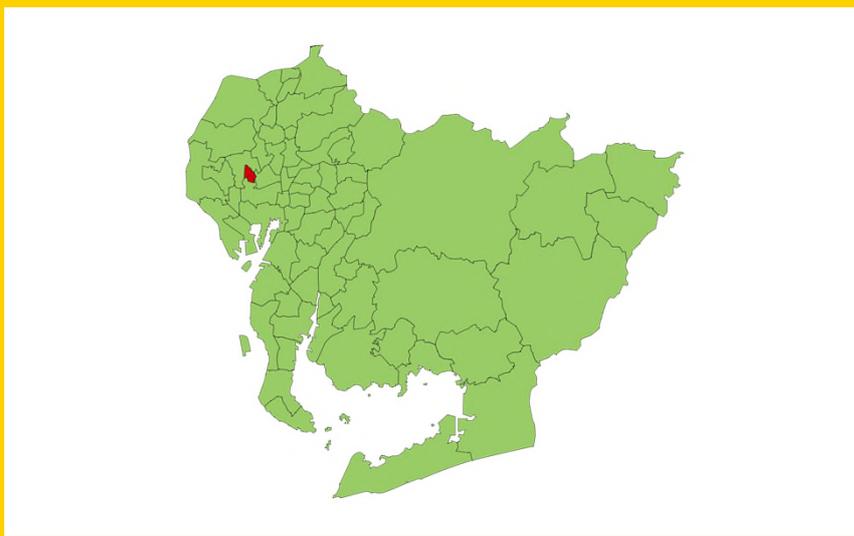


ハナショウブ

ヨシキリ



キンモクセイ



### デザインの由来

日本初の眼科治療院である明眼院の門と大治町で多く栽培される特産品の赤しそがデザインされたマンホール蓋です。大治町では、毎年6月頃の出荷に向けて赤しその栽培が盛んに行われ県下有数の生産地となっており、出荷時期になると庄内川の河川敷が一面赤紫色に染まります。新大正橋の上から一望できる赤しそ畑と庄内川の美しいコントラストは絶景です。このマンホール蓋には、「大治町のさらなる発展と和を」という想いを込め、大治町が愛知県の左上に位置することから、左上の赤しそを始まりとし徐々に大きくなる過程を町の発展と掛け合わせています。



赤しそ



明眼院の門

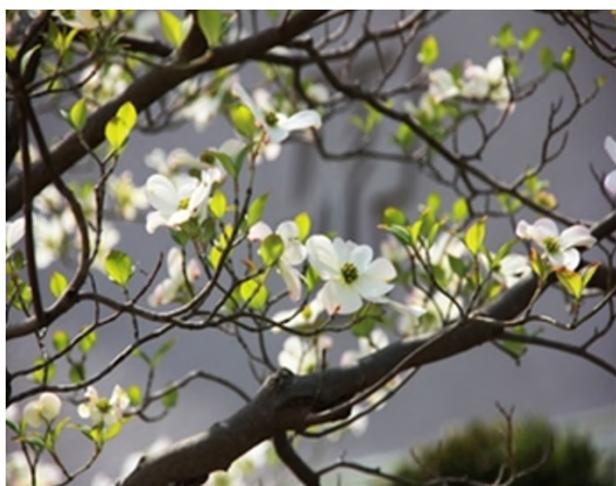


## デザインの由来

あま市誕生5周年を記念して一般公募により募集し、選定委員会において選考された、市の花及び市の木をモチーフにデザインしました。

ゆりは数多くの種類があり、その独特の甘い香りにより誰もが癒されます。ゆりの花言葉の「純粹・威厳」とあるように、清らかに見える中にも堂々としていることから、これからのあま市が限りなく発展していく象徴となるようにと描きました。

ハナミズキは、多くの家庭で植えられて馴染みがあり、春には花、秋には紅葉や赤い実が美しく、四季折々の変化が楽しめます。また、ハナミズキの花言葉に、「永続性」とあるように、あま市のみんなが思いやりを持ち、人と人との絆を大切にすることによって、あま市が永続的に繁栄していくようにと願いを込め描きました。



市の木：ハナミズキ



市の花：ゆり



### デザインの由来

市の木「桜」を背景に、市のキャラクター「きんちゃん」と、明治時代に弥富市で生まれた白文鳥をデザインしたマンホール蓋です。「きんちゃん」は弥富市の地場産業である金魚をモチーフにしており、市名の「や・と・み」にちなんだ平成8年10月3日（や・と・みの日）に誕生しました。この楽しげでほのぼのした雰囲気のおかげで、市内の至る所にある下水道のマンホール蓋が可愛らしくなっています。半分サイズのマンホール蓋は、小さい分少しだけ柄が違っているので、弥富市を訪れた際には比べてみてください。



きんちゃんと文鳥



金魚

35 / 151

つしま  
津島市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

津島市の花である「藤」と尾張津島天王祭の「まきわら舟」を組み合わせデザインしたマンホール蓋です。津島市はかつて「藤浪の里」といわれたほどの藤の名所。尾張津島藤まつりの会場となる天王川公園では、昼は風にそよぐ壮麗な藤を、夜はライトアップによって幻想的な美しさを醸し出す藤を心ゆくまでお楽しみいただけます。また、尾張津島天王祭は津島神社の祭礼で、全国に数ある夏まつりの中でも最も華麗なものといわれています。毎年7月第4土曜日とその翌日に開催され、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。イベントを楽しみながら、このマンホール蓋を探してみてください。



藤棚



まきわら舟

36 / 151

ひがしうら

東浦町

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

中央に描かれている魚は、昭和40年代まで本町の河川の河口付近でよく見られた「トビハゼ」という魚です。その名前のように、泥の上を飛び跳ねる魚として知られている魚です。河川の水がきれいになり、元気なトビハゼを再び見ることができるようにとの願いから、清流復活のシンボルとしてデザインしました。

また、その周りには、本町の緒川地区が「卵の花の里」と古歌にもしばしば詠まれていた由縁もあることから、町花となっている「ウノハナ」と東浦町の町章マークで取り囲み、自然と共生し、うるおいあるまち「東浦」をイメージしたデザインとなっています。



トビハゼ



ウノハナ

37 / 151

いなざわ

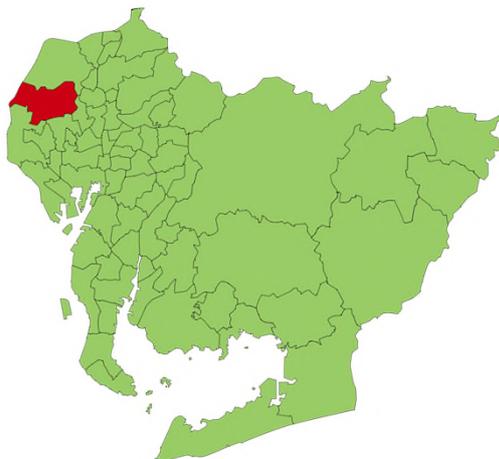
# 稲沢市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

稲沢市のご当地キャラクター「いなッピー」のデザインマンホール蓋です。いなッピーは、頭が特産品の植木とアシタバでできており、体はイチョウ、はちまきとフンドシは天下の奇祭「国府宮はだか祭」の装いとなっています。

中央に大きく描いた、いなッピーは、元気な稲沢市のイメージそのもの。そのまわりを市の木「クロマツ」、市の花「キク」、市のお祭りを彩る「さくら」、「あじさい」、「イチョウ」、「梅」、で飾り、稲沢らしさを強調したデザインとなっています。



いなッピー



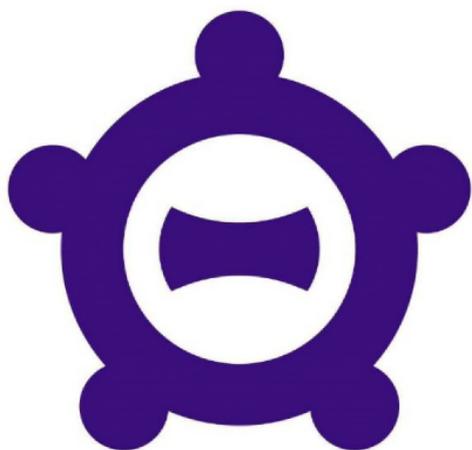
植木



### デザインの由来

一宮市の「市章」と市の花である「キキョウ」を組み合わせ、デザインしたマンホール蓋です。背景にオレンジ色を配し、蓋の中心にあしらった市章から放射状にキキョウを描きました。

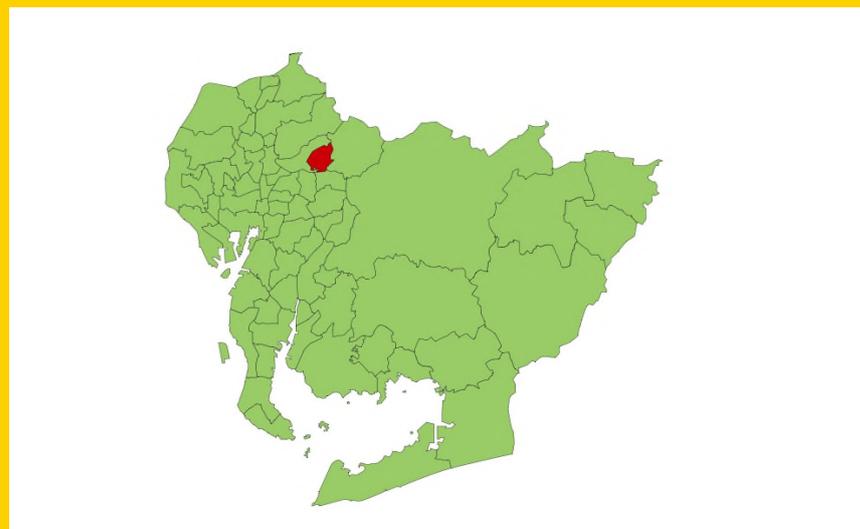
この市章は、市の名称の由来となった尾張国一の宮である真清田神社の神宝五鈴鏡（ごれいきょう）をかたどったものです。一方、キキョウは秋の七草の一つに数えられる多年草で、根は太く野山に自生し、品種によって草丈は1メートルにもなります。また、育てやすく清楚な花を咲かせるため、古くから日本人に親しまれています。本マンホールは市制70周年を記念して、1991年に制作しました。



市章



市の花 キキョウ



## デザインの由来

尾張旭市の市章のまわりを「ひまわり」で飾ったデザイン蓋です。市章は、市制をしく前の旧旭町時代から受け継がれているもので、旭の「ア」の字を3つ連ねて「市民の団結と発展」を表現しています。一方、ひまわりは昭和55年に市民公募によって市の花に決定しました。昔から地域に根付いて愛されてきた花で、平成16年に市のイメージキャラクター「あさぴー」が誕生した際も、そのデザインの基となりました。本マンホール蓋の中央に記されている「S」は、汚水を意味するアルファベットです。



市章



ひまわり

40 / 151

たけとよ  
武豊町

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

武豊町のキャラクター「みそたろう」をぐるりと彩るように町の花「サザンカ」が描かれたマンホール蓋です。

みそたろうは醸造のまちである武豊町をPRするため平成31年4月1日に誕生しました。顔は特産品である「豆みそ」のみそ樽で、頭にはサザンカをさし、腰にはたまり（しょうゆ）を携えています。

また、町内には浦島太郎が竜宮城を偲んで建てたとされる「竜宮神社」や、亀に背負われたことに由来する「負亀（おぶかめ）の松」などもあり、浦島太郎伝説が残る町であることから、みそたろうも浦島太郎に扮したデザインとなっております。



みそ樽



サザンカ

41 / 151

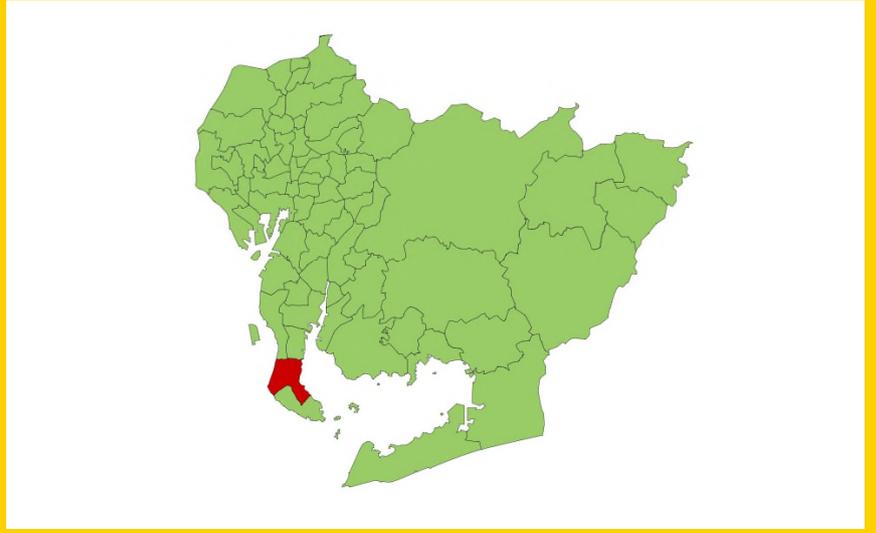
みはま  
美浜町

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

「美浜町にも特徴的なデザインマンホールを！！」という担当者の思いから、町の木である「クロマツ」、町の花である「ツツジ」、そして、大正10年に設置された愛知県最古の灯台である「野間埼灯台」と国の天然記念物に指定された「鶺鴒の山ウ繁殖地」から「カワウ」がデザインされています。

町内でも少ないデザインマンホールの中でもカラーリングされたマンホールは、この1枚のみという大変貴重なマンホールです。

ぜひこの機会に写真を撮ってはいかがでしょうか。



クロマツ



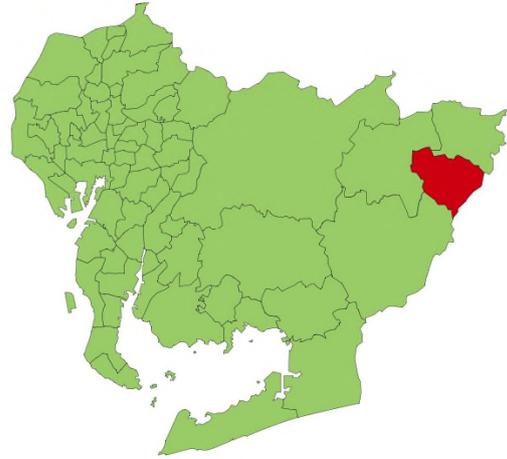
ツツジ



野間埼灯台



カワウ



### デザインの由来

東栄町の下水道推進標語である「鮎躍り ホタル舞う川 下水道」と、町の花である「やまゆり」と町の木である「杉」を象徴的にデザインしました。

東栄町を流れる振草川の鮎は、第20回清流巡り利き鮎会においてグランプリに選ばれ、日本一美味しい鮎として評価されました。

美味しい鮎の育つきれいな川には、たくさんの天然のホタルが生息しており、毎年「ホタルのさんぽ道」と称し、ホタル観賞イベントを開催しています。

東栄町のマンホールデザインは、東栄町の特徴を取り入れたデザインとなっております。



振草川の鮎



天然のホタル

43 / 151

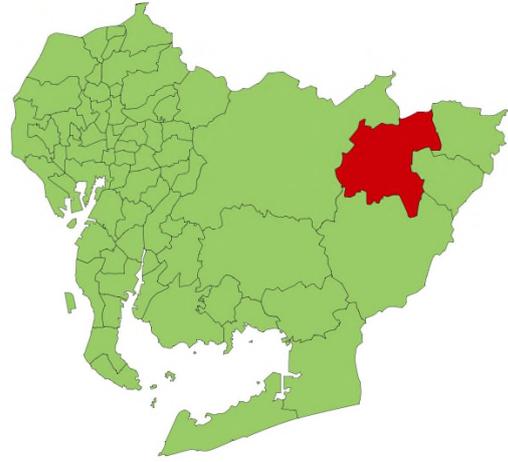
したら  
設楽町

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

設楽町の町章の周りに町の花である「シャクナゲ」を配置し、緑に囲まれた雰囲気をイメージして描いたマンホール蓋です。

町章は設楽町のローマ字の頭文字「S」をモチーフとして、高原や山々、湖など地域の豊かな自然を表しています。

ホソバシャクナゲとホンシャクナゲの2種が分布するのはとても珍しく、特にホソバシャクナゲの生息地は県の天然記念物に指定されています。ホソバシャクナゲはピンク色の花弁が5枚、ホンシャクナゲは薄ピンク色の花弁が7枚で長楕円形の葉を持ちます。いずれも日本固有種で、5月には町内各地で咲き誇る姿を楽しむことができます。



ホソバシャクナゲ



設楽町章



田口浄化センター  
(令和3年4月供用開始)



### デザインの由来

春日井市は今年度で市制80周年を迎えました。

本市の汚水マンホール蓋は「さくら」をモチーフとして、中央に市章を配置したデザインとなっています。市章の外わくに使われていた「さくら」は、1973年（昭和48年）市の花に制定されました。

日本の「春」を象徴する「さくら」は、平和のシンボルとしても使われることから、安心して利用できる下水道という思いも込めたデザインとなっています。

これらのデザインは1985年（昭和60年）より採用され、1997年（平成9年）には大雨時の浮上防止機能を追加し、現在に至っています。



落合公園の桜



市制80周年

45 / 151

こうなん  
江南市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

江南市北部を流れる木曾川の清流のなかに市の花「ふじ」がデザインされたマンホール蓋です。国指定文化財がある「曼陀羅寺」に隣接する藤の名所「曼陀羅寺公園」では、毎年4月下旬から5月上旬まで「藤まつり」が行われ、12種類約60本もの藤が色鮮やかに咲き誇り、優雅な花房の甘い香りに包まれます。江南市初のカラーマンホール蓋はこの曼陀羅寺公園横に設置されています。



曼陀羅寺と藤



曼陀羅寺公園の「藤まつり」

46 / 151

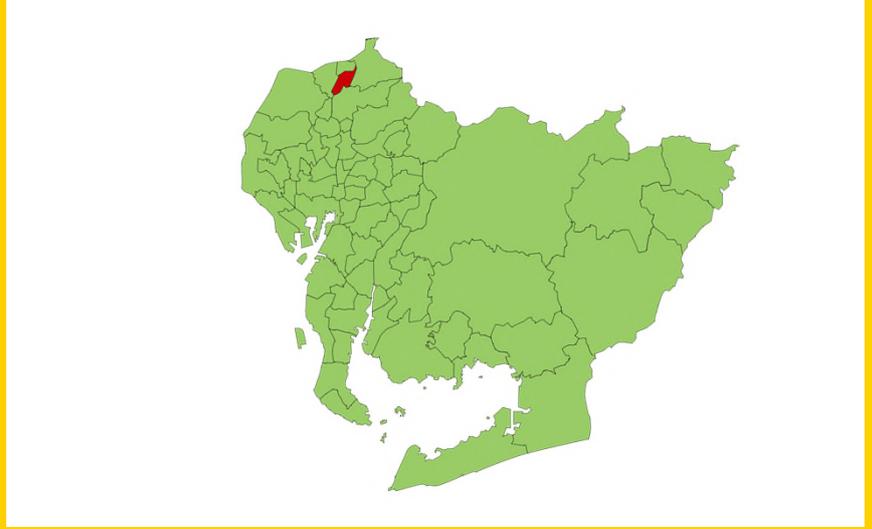
おおぐち  
大口町

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



デザインの由来

大口町の中央を流れる五条川をイメージした水色を背景に、ピンク色の桜が咲き誇っている様子を描いています。このカラーマンホールは、愛知県下水道科学館でのみ見ることができます。

また、カラーマンホールには、非常時にマンホールトイレとして使用する災害時用のものがあり、目立つよう黄色に着色されています。役場南ひろば等の防災拠点に設置されています。

大口町には、五条川に桜並木があり、令和5年3月26日に町制60周年記念として完成しました『花見橋』からは、ライトアップされた桜の綺麗な景色を眺めることができます。



五条川の桜並木



花見橋

47 / 151

たはら  
田原市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

平成15年に旧赤羽根町の公共下水道事業によりデザインされたものです。蓋の中央に描かれているのはサーフィンの世界大会も開催される太平洋ロングビーチの海岸風景です。周囲には渥美半島の特産である菊の花が描かれています。

海と山の豊かな自然と、田原市の誇る全国有数の農業産出を表したデザインになっています。

観光情報などを市HPや公式SNSにて発信しておりますので、ぜひ一度訪れてみてください。



太平洋ロングビーチ



菊の花



### デザインの由来

岩倉市民の花木である「さくら」と五条川で行われる「のんぼり洗い」をイメージしてデザインされています。岩倉市のほぼ中央を南北に流れる五条川沿いに並び1,300本を超えるの桜が咲き乱れる風景は、日本の「さくら名所100選」にも選ばれた東海地方有数のお花見どころです。「のんぼり洗い」は、毎年、大寒の頃からのぼり屋の職人が川に入り鯉のぼりを染める時に使う糊を落とす作業で、「東海美の里百選」にも選ばれた岩倉五条川の初春の風物詩です。尾北自然歩道にも指定されている五条川沿いには、カラーのマンホールが設置されています。岩倉市にお越しの際には探してみてもはいかがでしょうか。



五条川の「さくら」と  
「のんぼり洗い」



49 / 151

とよやま  
豊山町

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

豊山町の町章と町の花「さざんか」を中央に描き、その周りを町の木「しいの木」でデコレーションしたマンホール蓋です。町の花・木は昭和55年、「健康で心やすらぐ豊かな町」のイメージにふさわしい豊山町のシンボルとなる花と木を募集し、住民投票によって決定しました。さざんかは日本固有種で、晩秋から冬にかけて可憐な花を咲かせます。

一方のしいの木はブナ科の常緑高木で、古来、日本人の暮らしと密接な関係を築いてきました。本デザインのように癒しとやすらぎを与えてくれるこれらの花・木は、豊山町役場や町内の神社などで大切に育てられていますので、ぜひ探してみてください。



さざんか



しいの木

50 / 151

あいち あいさい  
愛知県 愛西市

全国 岡崎市  
愛知県 ゆかり



デザインの由来

愛西市の公式Vチューバー「あいさいちゃん」がマンホールデザインになって登場！ 愛西市出身の漫画家「伊藤彰(いとうあきら)」先生にデザインをしていただいて、蓮田(はすだ)をイメージした着物柄は豊かな水の恵と緑あふれる大地を表し、人・自然・愛があふれるまち愛西市の魅力・市政情報の発信に大活躍です。



戦国 おだのぶなが  
武将 織田信長公

ゆかりの地

尾張勝幡城(しよばたじょう、現在の愛西市勝幡町辺り)で生まれ、父信秀公の死により18歳で家督を継ぐ。異様な風体を好み、粗暴な振る舞いが多かった信長公は、「大うつけ者」(大ばか者)と呼ばれ、一族・家臣の離反を招いた。



桶狭間の戦い

51

151

あいち

愛知県

あいさい

愛西市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

2005年4月に海部郡佐屋町、立田村、八開村、佐織町の2町2村が合併した愛西市。その旧佐屋町のマンホールデザインで、「人魚が住めるような水を目指して」ということから、人魚と旧佐屋町の花・キキョウのデザインとなっています。市名は公募により「愛」知県の「西」部に位置することから「愛西市」(あいさいし)となりました。



戦国  
武将

おだのぶなが  
織田信長公

### ゆかりの地

18歳で家督を継いだ信長公は、まず尾張国内の一族・家臣ら反対勢力の一掃に乗り出した。この過程で鉄砲と長槍で武装し、信長公の手足となって動く強力な家臣団を編成した。これが桶狭間の戦いで奇襲作戦を成功させた勝因となった。



桶狭間の戦い

52

151

あいち

とよあけ

愛知県

豊明市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

「桶狭間古戦場」をイメージし、市の下水道元年(昭和63年)に製作されたマンホール蓋です。「桶狭間の戦い」は、織田信長が数的不利をはねのけ、今川義元を打ち破った一戦として知られています。まさに日本史上まれにみる大金星であり、その舞台となったまちが、ここ豊明です。市内には、国指定史跡の「桶狭間古戦場伝説地」をはじめ、信長と義元にゆかりのある史跡が取多く遺されています。(抜粋)



戦国  
武将

おだのぶなが  
織田信長公

### ゆかりの地

尾張国(おわりのくに)のの小国大名から、桶狭間の戦い(現在の愛知県名古屋市~豊明市)で今川氏を破り、一躍、全国に勢力を拡大したが、天下統一を目前に本能寺の変で横死した。



桶狭間の戦い



## デザインの由来

静岡にゆかりの深い「あおい」の名を持つ花の中で、ひととき華やかな大輪を咲かせるという理由から、市民公募によって市の花に制定された「 tachiaoi 」。ピンクや赤、白、紫など多彩な花の色を持つ多年草で、その高くまっすぐ伸びた茎と、大輪が空高く咲き誇る姿をイメージして制作したマンホール蓋です。中央にある市章は、静岡の頭文字「S」をベースに図案化したもので、豊かな自然と都市機能の調和を表現しています。（抜粋）

戦国  
武将

いまがわよしもと

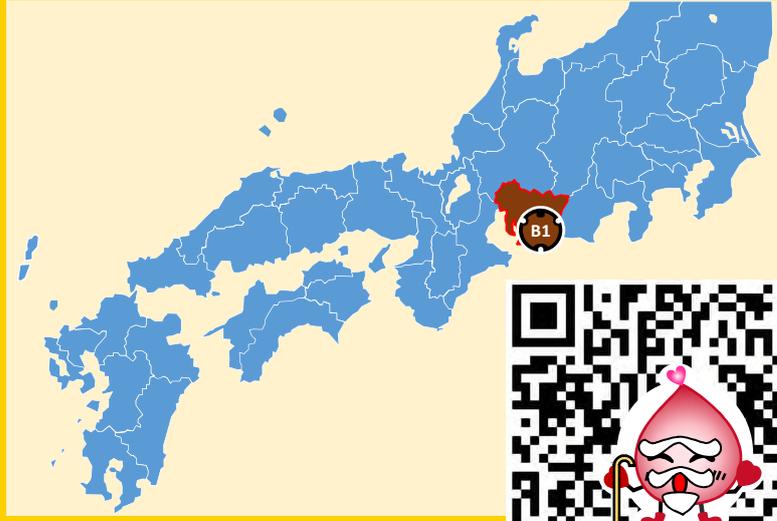
今川義元公

## ゆかりの地

今川氏は室町・戦国時代の230年に渡り駿河に君臨し、現在の静岡市の礎を築いた。特に義元公は「海道一の弓取り」（東海道一の優れた武士）と評され、武田氏、北条氏とも互角に渡り合った名将として諸国に恐れられたが、駿河に京風文化を花開かせた文化人としての一面も併せ持つ。



桶狭間の戦い



### デザインの由来

豊橋市制90周年を記念して1996年に製作したデザインマンホール蓋(3種類)の1つです。豊橋市が発祥の地といわれる「手筒花火」を前面に描き、背景には市民の水源地である「豊川」、市の木「クスノキ」、市のシンボル「吉田城」をデザインしました。手筒花火は火薬を詰めた竹筒を人が抱えて放揚(ほうよう)するもので、天高く吹き上がる火柱は壮観のひとつ。クライマックスはハネ粉という火薬に火が付く瞬間で、大音響とともに終演します。(抜粋)



戦国  
武将

さかいただつぐ

酒井忠次公

### ゆかりの地

徳川四天王、徳川十六神将と称される家康公第一の功臣。桶狭間の戦いの後に吉田城(愛知県豊橋市)の城主となり、東三河の旗頭として三河東部の諸松平家・国人を統制し、勢力拡大のための足掛かりとなる三河国を統一した。



三方ヶ原の戦い

55

151

しずおか

はままつ

静岡県

浜松市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

浜松市マスコットキャラクター「出世大名家康くん」がデザインされた「出世マンホール」です。徳川家康公は、「浜松城」を築いて17年間城主を務めたのち天下統一を成し遂げた、まさしく「出世大名」。家康くんはその生まれ変わりといわれています。見つけると出世運が「うなぎのぼり」になるとされるこのマンホール蓋。是非探してみてください！（抜粋）



戦国  
武将

とく がわ い え や す

徳川家康公

### ゆかりの地

織田信長公と共に浅井・朝倉連合軍を破り、姉川の戦いに勝利した家康公は、それを機に29歳で岡崎城を嫡男の信康公に任せ、自らは浜松城へ移った。その後、甲斐武田氏との勢力争いを制し、遠江国・駿河国を平定。羽柴秀吉公と小牧・長久手の戦いに講和した翌年、家康公は45歳で居城を浜松から、幼少期に今川義元公のもとで人質生活を送った駿府に移した。



### 三方ヶ原の戦い

56

151

しずおか

はままつ

静岡県

浜松市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

2005年、周辺11市町村とともに浜松市へ編入された旧天竜市のマンホールふたです。旧市の木・スギ、旧市の花・ヤマユリ、旧市の鳥・キセキレイのデザインです。浜松市天竜区にある二俣城攻防戦は三方ヶ原の戦いにおいて武田軍の優勢を決定的なものとししました。城跡は国の史跡に指定されています。



戦国  
武将

とく がわ い え や す

徳川家康公

### ゆかりの地

家康公は、29歳から45歳までの青年期を浜松城で過ごした。この間、生涯最大の敗戦として「家康公の人生三大危機」に数えられる「三方ヶ原の戦い」をはじめ、幾多の試練を家臣団と共に乗り越え、天下統一への足掛かりを築いた。



三方ヶ原の戦い

57

151

やまなし

こうふ

山梨県

甲府市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

甲府市は山梨県内に広がる甲府盆地の中心に位置しており、山々に囲まれた地形のため夏は暑く、冬は寒い気候となります。ナデシコは、そのような酷暑・寒風に耐えて美しい花を大空に向かって咲かせることから、昭和37年に甲府市の花として制定されました。以降、ナデシコは広く市民に親しまれ、「ナデシコの花のように下水道をより身近なものとして利用してもらいたい」という思いから平成7年にマンホールのデザインに取り入れました。(抜粋)



戦国  
武将

たけだ しんげん

武田信玄公



### ゆかりの地

武田氏は、信虎公・信玄公・勝頼公の三代、約60年にわたり、現在の甲府のまちの基盤を作った。城下町は3km規模で碁盤の目のように道が整備され、家臣の屋敷も移された。特に信玄公の時代には、築堤などの治水事業や鉱山開発(甲州金)も行われ、経済基盤も整った。

### 三方ヶ原の戦い



### デザインの由来

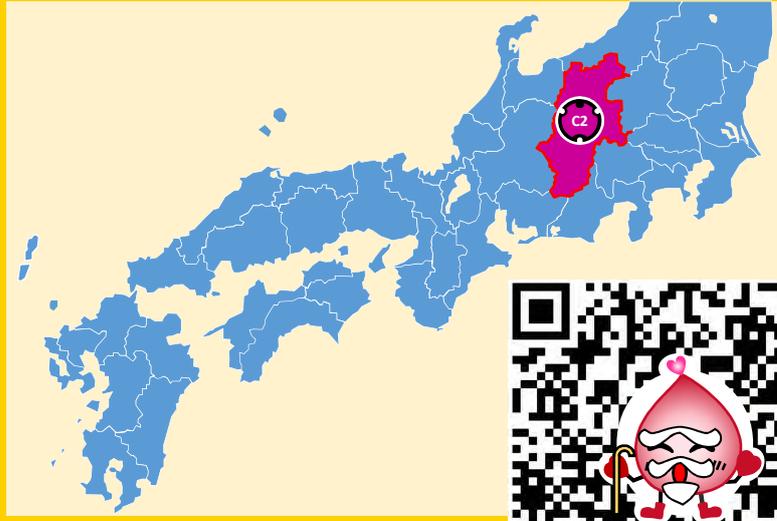
旧鳳来町のマンホールふたです。2005年に(旧)新城市、鳳来(ほうらい)町、作手(つくで)村が合併して(新)新城市が誕生しました。旧鳳来町の花・ホソバシャクナゲ、鳳来寺杉と町の鳥・コノハズクのデザインです。新城の名前の由来は長篠・設楽原の戦いで功績のあった奥平信昌(おくだいらのぶまさ)が徳川家康の長女亀姫をめとり、この地に新しい城を築いたのが「新城城(しんしろじょう)」とされています。

## ながしの 長篠 ・ 設楽原合戦場



長篠・設楽原  
の戦い

**ゆかりの地** 武田家の家督を継いだ勝頼公は、遠江・三河を再掌握すべく、奥三河の長篠城(現在の愛知県新城市)を攻め立てた。これを織田・徳川連合軍が設楽原(現在の愛知県新城市)で待ち構え、最新兵器の鉄砲を大量に駆使した集団戦法で武田の騎馬軍団を撃破した。



### デザインの由来

国宝松本城と並び、松本のシンボルとして親しまれている伝統民芸品「松本てまり」のデザインマンホール蓋です。美しい色糸を巻いた精巧で優雅な松本てまりは江戸時代に誕生し、松本城下の子供たちが好んで遊んだと伝えられています。松本市立博物館には古い様式のでまりが所蔵されており、すぐれた技量を感じることができます。マンホール蓋の丸いキャンバスに丸いてまりが絶妙にマッチし、設置当初から好評をいただいている本デザイン。（抜粋）



戦国  
武将

いしかわ かずまさ

石川数正公

### ゆかりの地

徳川家康公の懐刀として活躍したが、小牧・長久手の戦いの後に出奔して豊臣秀吉公に臣従した。秀吉公が天下統一を果たすと、関東の徳川勢を監視するため信州松本に10万石を与えられ、天守城郭及び城下町の整備に尽力した。

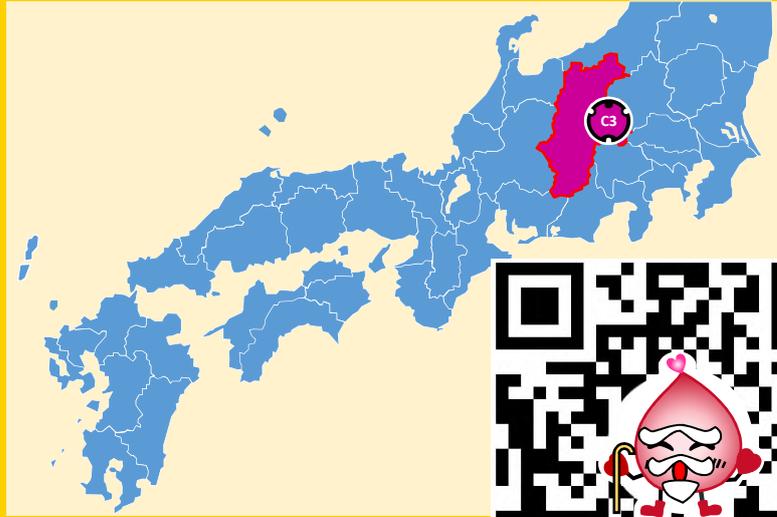


長篠・設楽原  
の戦い

60 / 151

ながの こもろ  
長野県 小諸市

全国 岡崎市  
愛知県 ゆかり



デザインの由来

浅間山の南麓に広がる

”詩情あふれる高原の城下町”、小諸市。本マンホール蓋は、「浅間山を背景に小諸城址懐古園の「三の門」を描き、周りを市の花「コモロスミレ」と市の木「ウメ」で彩ったデザインです。小諸城址は千曲川沿いの断崖絶壁の上に築かれており、本丸が城下町よりも低地に位置するため、全国でも珍しい「穴城」の構造をしています。一方、コモロスミレは大正末期に発見された小諸だけに咲く花。ウメは小諸の学校精神をあらわす花として、古くから市民に親しまれています。（抜粋）



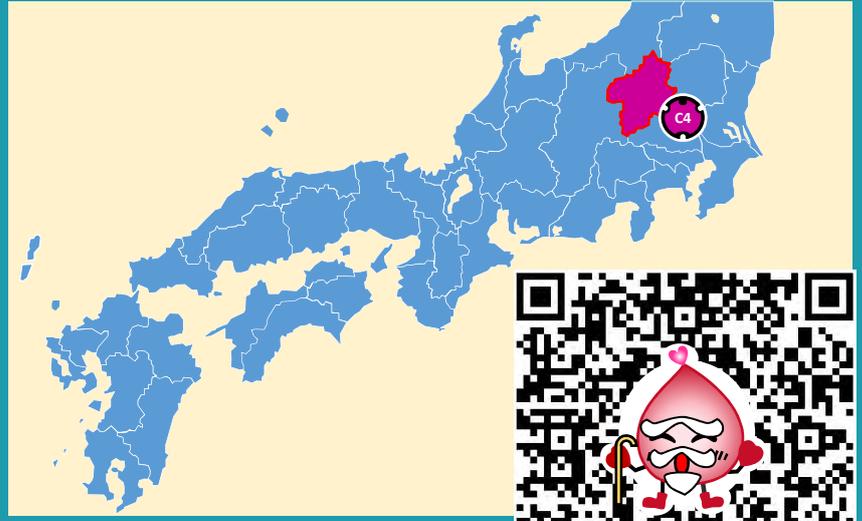
戦国 おおくぼただよ  
武将 大久保忠世公

ゆかりの地

徳川十六神将の1人に数えられる勇猛な忠臣。本能寺の変後に徳川家康公が甲斐・信濃に勢力を広げると、忠世公は信州総奉行として小諸城（長野県小諸市）に在番し、城主依田康国（よだやすくに）公の後見人として補佐した。



長篠・設楽原の戦い



## デザインの由来

館林市の観光大使「ぽんちゃん」を中央に配し、世界中から観光客が訪れる日本一のツツジの名園「つつじが岡公園」にあやかって、周囲にツツジの花をあしらいました。「ぽんちゃん」は、分福茶釜で知られる館林市の観光マスコットキャラクターとして誕生、頭には“つつじ”, 胴体は“茶釜”, つぶらな瞳と愛くるしい表情で子どもから大人まで魅了しています。また「つつじが岡公園」には推定樹齢800年を超えるヤマツツジや、50品種以上のツツジ約1万株が咲き誇っていて、来園者を楽しませています。

戦国  
武将

さかきばら やす まさ

## 榊原康政公

## ゆかりの地

康政公は徳川家康公に仕え「徳川四天王」「徳川三傑」の一人に数えられる武功派家臣。江戸時代の初代館林城主になると、江戸の北を守る軍事拠点として、城下町全体を土塁と堀で囲む「惣(そう)構え」を整備し、現在の館林市街地の基礎を築いた。

長篠・設楽原  
の戦い

62 / 151

やまなし

山梨県

つる  
都留市

全国 岡崎市  
愛知県 ゆかり



### デザインの由来

中央に市章と周囲を3分割して市の花・ウメのデザインです。「都留」の起源はむかし、富士の裾野を蔓(つる)ののびた様子に想像し、「連葛」、「豆留」(いずれも「つる」)などとかかれています。また音の「ツル」を連想して、長寿の里として万葉集にも詠われました。このめでたい地名にちなんで「都留」と名付けられたそうです。市章は、カナ文字「ツル」の二字を形どって図案化されています。



戦国  
武将

とり い もとただ

鳥居元忠公

### ゆかりの地

元忠公は駿河今川氏での人質時代から家康公を守り続け、三河武士の鑑と称えられる徳川一筋の忠義者。旧武田領を巡る争いでの功績により、甲斐国都留郡(山梨県都留市)を与えられ城持(しろもち)衆の一人となった。



長篠・設楽原  
の戦い



### デザインの由来

長浜市は天正年間に羽柴秀吉(のちの豊臣秀吉)が「今浜」を長浜に改名し、小谷(おたり)城下などの商人たちを集めて、楽市である城下町を作ったのが基礎とされています。マンホールふたは合併前の旧長浜市の「市章」を中央に、長浜城主であった豊臣秀吉の馬印(うまじるし)である「千成瓢箪(せんなりびょうたん)」をデザインしたものです。



戦国 はしばひでよし

武将 羽柴秀吉公



### ゆかりの地

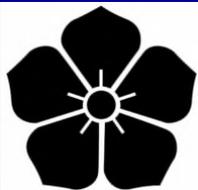
山崎の戦いで見事勝利した羽柴秀吉公の生涯で初めての居城が長浜城(ながはまじょう、滋賀県長浜市)。小谷城(おだにじょう)の戦いでの功績により織田信長公から北近江三郡を与えられ、今浜(いまはま)の地に築城した。この時、信長公の一字を拝領して「長浜」と改名し、ここで領国・城下町経営の基礎(帝王学?)を学んだ。

### 山崎の戦い



### デザインの由来

亀岡市はその昔「亀山」という地名で呼ばれ、明智光秀が築いた丹波・亀山城の城下町として栄えました。今の「亀岡」になったのは1869年。伊勢国の亀山と混同されないように改称した経緯があります。いずれにしても亀岡は「亀」と縁が深く、本マンホール蓋のデザインにも2匹のカメをあしらいました。甲羅の部分に亀岡市の市章を組み合わせたことからユニークな形をしていますが、それが逆に子どもから大人まで親しめる愛嬌になっています。カメの体から外に向けて波紋のように広がる曲線は、下水道事業の推進を表現したものです。(抜粋)



戦国  
武将

あけちみつひで

明智光秀公

### ゆかりの地

織田信長公の命により丹波平定に本格的に着手した光秀公は、その拠点を近江坂本から丹波亀山に移し、新たに亀山城(京都府亀岡市)と城下町を整備した。これが近世亀山の発展の基礎となり、現在における亀岡のまちづくりのルーツとなっている。



山崎の戦い

65

151

おおさか

おおさか

大阪府

大阪市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

2025年に開催される「大阪・関西万博」の公式キャラクター「ミヤクミヤク」がマンホールふたから飛び出してきたような躍動感あふれるデザインとなっています。ミヤクミヤクの赤い部分は「細胞」で、分かれたり増えたりする、青い部分は「清い水」で、流れる様に形を変えることができる。細胞と水がひとつになったことで生まれた、ふしぎな生き物です。

## いがごえ 伊賀越えルート

**ゆかりの地** 徳川家康公は堺での見物を1泊で切り上げ、織田信長公のいる京に向かって朝早く出発した。紀州街道を北へ2キロほど進み、大和川を渡れば大阪に入る。全国の住吉神社の総本社・住吉大社(大阪市住吉区)は目と鼻の先、家康公一行も、ここで旅?の無事を祈願したことだろう。



山崎の戦い



### デザインの由来

お茶の産地として名高く、日本緑茶の発祥の地としても知られる宇治田原町。まちづくりの上で、お茶を産業のひとつとして捉えるだけでなく、文化振興や地域産業の活性化のツールとしても活用を図っています。本カードのデザインは、1997年に製作しました。茶摘みの様子を蓋いっぱい描き、将来にわたって変わらぬ景観を残していきたいという町の想いを表現しました。(抜粋)

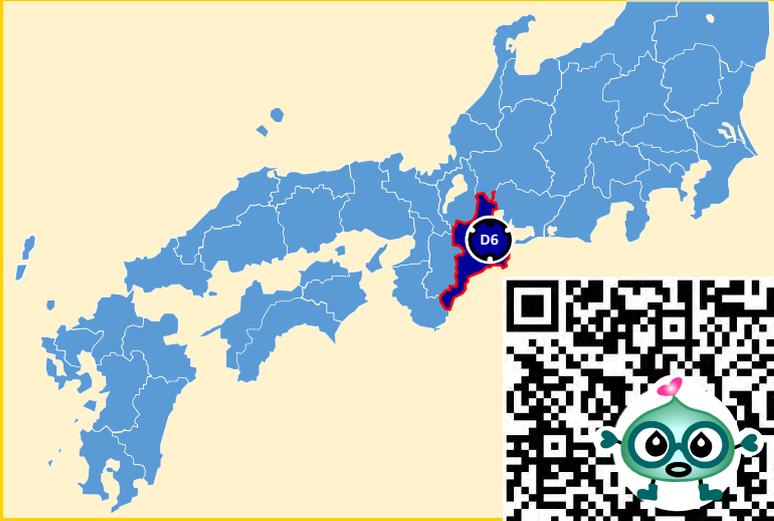
## いがごえ 伊賀越えルート

### ゆかりの地

織田信長公は、東西の交通の要衝・宇治田原を押さるため、山口城(宇治田原城)に山口甚介秀康を配していた。家康公一行はここで早めの昼食をとったが、ゆっくりするほどの余裕はなく、ここから信楽(しがらき)街道を利用して裏白(うらじろ)峠を越え、夜半には近江・甲賀(こうか/こうが)国にたどり着いた。



### 山崎の戦い



デザインの由来

自動車産業やモーター

スポーツのまちとして全国的にも知られている鈴鹿市は、三重県の北中部に位置し、海・山・川などの自然に恵まれています。一次産業は、お茶やサツキに代表される農業、イワシ・コウナゴなどの漁業が昔から盛んで、まちは多くの魅力と個性にあふれています。本市のマンホール蓋は、鈴鹿の峰々から湧き出た清水が川となって緑の野を流れ、白砂青松の伊勢湾に注ぐ様を描いたもの。鈴鹿の美しい自然を守りたいという想いを込め、市の伝統的工芸品である伊勢型紙をイメージした温かみのある色合いに仕上げました。鈴鹿の豊かな自然を感じながら、ご鑑賞ください。(抜粋)

いがごえ 伊賀越えルート

ゆかりの地

家康公一行は、道中を甲賀衆や伊賀衆に守られ、伊勢国白子浜(三重県鈴鹿市)まで辿り着いた。明智勢の追手が港を警戒する中、酒井忠次旧知の廻船問屋の協力を得て舟荷の干鰯(ほしか)に紛れて船番所をやり過ごし、無事、伊勢湾へと脱出することができた。



山崎の戦い



### デザインの由来

当市のマンホールの蓋のデザインは、平成元年度より公共下水道を本格的に着手するにあたり、“碧南市のイメージにあう”マンホールの蓋のデザインを昭和63年に市内の小学生4年生以上及び中学生を対象に募集し、応募総数298点の中から選ばれた作品を基に、マンホールの蓋として使用できるように一部デザインを専門家に修正してもらい作成されたものです。このデザインは、中央に市章を配し、そのまわりに市の花「ハナショウブ」と「カモメ」を描き“海へのひろがり”と自然との調和ある都市碧南市”のイメージを図案化したものとなっております。（抜粋）

## いがごえ 伊賀越えルート

### ゆかりの地

家康公一行は伊勢湾を渡って大浜（愛知県碧南市）を經由し、足掛け3日間、200キロにも及ぶ伊賀越えを完遂し、無事三河まで帰還することができた。大浜まで迎えにきた家臣によれば、一行は襲撃してきた一揆勢約200人を倒してきたと道中での過酷な様子を語ったという。



### 山崎の戦い

## 151 京都府乙訓郡

## 大山崎町



## デザインの由来

本町のマンホール蓋には町の花「さくら」、鳥「ウグイス」、木「赤松」をデザインしました。天王山は「天下分け目」の山崎の戦い(天正10年)の舞台として知られる一方、ウグイスに代表される野鳥の宝庫として親しまれ、また、春には背割堤のさくらが見事な花を付けて人びとの目を楽しませてくれます。赤松は天王山一帯に広く植生。山崎の戦いでは、1本の古木が秀吉の旗印を掲げる「旗立松」として使われました。(抜粋)

## やまざきかっせんじょう

## 山崎合戦場

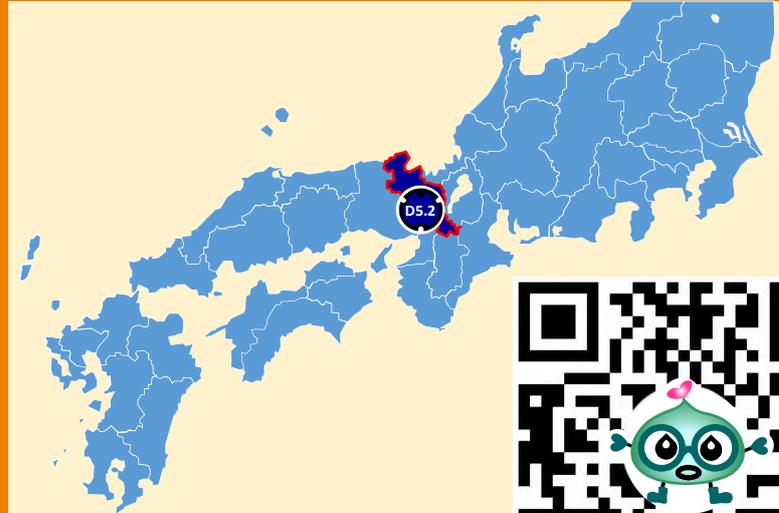
## ゆかりの地

天下分け目の舞台となった山崎の合戦地(京都府大山崎町)は京都のすぐ西側にあり、大阪や西国とを結ぶ交通の要衝で戦略的にも非常に重要な場所。これに目を付けた羽柴軍が、先にこの地の天王山を占拠した。これが天下取りの足場固めが出来ないまま、戦いに臨んだ明智軍との勝敗の明暗を分けることになった。



## 山崎の戦い

## 151 京都府乙訓郡 大山崎町



## デザインの由来

天下分け目の大決戦の代名詞となっている山崎の戦いの地「天王山」、羽柴秀吉と明智光秀が刀を交えるイラストと「いざ天王山！」の文字がデザインされています。天王山のふもとにある宝積寺(ほうしゃくじ)周辺と観音寺(山崎聖天)の3箇所設置しており、登山者を勇気づける力強い言葉で励ましています。グラデーションの展示マンホール以外に白色、青色バージョンも設置してあります。

## やまざきかっせんじょう

## 山崎合戦場

## ゆかりの地

開戦前、南北に流れる円明寺川(現・小泉川)を挟んで西側・秀吉軍約3万6千、東側・光秀軍約1万5千が対峙した。戦闘が始まると光秀軍は戦力に勝る秀吉軍に次第に押され、わずか1時間半ほどで秀吉軍の勝利に終わったという。



## 山崎の戦い



### デザインの由来

小牧市は、空港や高速道路の結節点という地理的特性を生かし内陸工業都市として発展してきました。歴史的には織田信長が築城し、後に「小牧・長久手の戦い」で徳川方が陣を構えた小牧山(国指定史跡)が有名です。現在は本市のランドマークとなっており、山頂には小牧市歴史館、麓(ふもと)には「れきしるこまき(小牧山城史跡情報館)」があります。また、篠岡地区は「しのおかの桃」の産地として知られています。市制35周年を記念し市民公募で1990年に制作され、鳥をイメージした「KOMAKI」の文字を中心に、魚で3つに分けた区域にそれぞれ飛行機、歴史館、桃を描いています。

## こまきやまじょう たた 小牧山城の戦い

### ゆかりの地

織田信長公が美濃攻めの拠点として築城し、僅か4年で廃城にした小牧山城(愛知県小牧市)。全山を石垣で固めた石の要塞、強固な防御力を誇る小牧山に目を付けたのが徳川家臣の酒井忠次(徳川四天王)だった。兵力で劣る家康軍が、羽柴軍を圧倒することができたのも、先手を打ってこの小牧山を占拠したからだ。



小牧・長久手の戦い



### デザインの由来

犬山市のシンボルである国宝犬山城と、ほとりに流れる木曾川、354余年の歴史を持つ木曾川うかいをイメージし、デザインしています。犬山城は、室町時代の1537年に織田信長の叔父織田信康により築城され、天守は現存する日本最古のものと言われています。大河木曾川のほとり、小高い山の上に建てられた「後堅固の城」で、天守最上階からの眺めは絶景です。木曾川うかいは、鶺舟に乗った鶺匠が海鶺を訓練し、川魚を捕らせる古代漁法でみどころ満載。観覧船が鶺舟の間際まで近づくので、時にははかがり火の熱気が頬で感じられるほど。国宝犬山城を背景に、幻想的な歴史絵巻が楽しめます。

## いぬ やま じょう たたか 犬山城の戦い

### ゆかりの地

犬山城は織田信康公（信長公の叔父）が築城した。交通の要衝である木曾川沿いに立地し、戦略上重要であるため、度々、三英傑が登場する合戦の舞台となっている。まず織田信長公は、この犬山城を攻略して悲願の尾張統一を達成し、天下取りへの足掛かりとした。小牧合戦の前哨戦では羽柴方によって攻略され、また関ヶ原合戦の前哨戦でも東軍の攻撃を受けて落城した。



### 小牧・長久手の戦い

73

151

あいち

愛知県

にしん

日進市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

日進市は愛知県のほぼ中央部である尾張と三河の境に位置し、標高37mの日進市役所を中心に周囲を50mから160mの丘陵地により形成されています。マンホールふたは戦国時代、徳川、豊臣両雄が雌雄を決すべくあいまみえた天正12(1584)年の「小牧・長久手の戦い」の緒戦となった「岩崎城の戦い」の地である岩崎城と松がデザインされています。今回のマンホールサミットのためにカラーマンホールを新しく制作しました！

## いわさきじょう たたか 岩崎城の戦い

### ゆかりの地

秀吉方池田軍の奇襲作戦に気付いた徳川方の岩崎城(愛知県日進市)を守る丹羽氏重は、果敢にも攻撃を仕掛けたが数十倍の戦力差には勝てず全滅、無念の落城となった。岩崎城は悲劇の舞台となったが、家康公は後に「一番の戦功者は池田勢を足止めさせた岩崎城代丹羽氏重である」と言って氏重の兄氏次に三千石加増した。



小牧・長久手の戦い

74 / 151

みえ 三重県  
かめやま 亀山市

全国 岡崎市  
愛知県 ゆかり



### デザインの由来

亀山市は三重県の中北部に位置し、市内の北西部には標高500mから900m前後の鈴鹿の山々が南北に走り、鈴鹿の関は日本三大関と呼ばれ、都と東国を結ぶ交通の要衝として栄えてきました。マンホールふたは亀山城多聞櫓(たもんろう)と市の花・ハナショウブがデザインされています。多聞櫓は三重県で唯一現存する城郭建造物として県史跡に指定されています。

## いせ かめやまじょう たたか 伊勢亀山城の戦い



### ゆかりの地

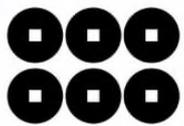
三重県で唯一現存する城郭建造物、伊勢亀山城(三重県亀山市)は、羽柴方家臣の岡本良勝によって近世城郭として整備された。残念ながら近代以降、城域のほとんどの市役所や小中学校などが建ってしまった。ただし当時は、現在地からは少し離れた亀山市歴史博物館の南の一角、今は亀山古城と呼ばれる辺りにあった。

小牧・長久手の戦い



## デザインの由来

本マンホール蓋は、合併前の上田市のシンボルマーク「六花文(ろっかもん)」を上部に配置し、当時の市花「ツツジ」をあしらったデザインです。「六花文」は、天正11年(1583)に築城された上田城の城主・真田氏の家紋である「六文銭」を花に見立てて円形に配置した物です。戦国時代の上田城は、第一次・第二次上田合戦の二度にわたり、真田昌幸(幸村の父)が徳川家康の軍を苦しめた難攻不落の城です。現在の上田城は桜の名所で、また、信州上田の主たる観光地として多くの観光客でにぎわいます。信州上田へお越しの際は、上田城とマンホール蓋をぜひ見にいらして下さい。

戦国  
武将

さなだまさゆき

ゆきむら

## 真田昌幸・幸村公

## ゆかりの地

長篠の合戦後、真田の家督を継いだ昌幸公は、上田盆地のほぼ中央、千曲川とその分流を引いた尼ヶ淵を臨む崖上に上田城(長野県上田市)を築いた。武田家が滅びると織田家、北条家、徳川家と頼る大名を巧みに替え、領地を死守した。

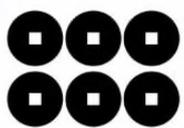


上田合戦



## デザインの由来

上田市本原南(もとはらみなみ)地区のマンホールは真田氏の旗と真田氏の館跡に咲き誇るツツジをデザインしています。真田氏が上田城を築城する以前の館跡は地元では「お屋敷」と呼ばれ。また現在は「御屋敷公園」として整備され、ツツジの名所として親しまれています。さらに隣接する真田氏歴史館では戦いの足跡や武具甲冑など真田一族に関する資料が展示されていますので戦国の激動の世を生き抜いた真田三代の活躍に思いを馳せてみませんか。

戦国  
武将

さなだまさゆき

ゆきむら

## 真田昌幸・幸村公

## ゆかりの地

真田昌幸公と次男信繁(幸村)公は、上田城を舞台に二度の「上田合戦」で徳川の大群を撃退し、天下にその名を轟かせた。しかし関ヶ原の戦いでは西軍についたため、その敗北により紀州(現・和歌山県)へ配流となり、上田城も破却された。



上田合戦



### デザインの由来

デザインのもちーフとなっ  
ているのは津山城とごんご(津山の方言で河童のこと)です。津山城は津山藩初代藩主・森忠政が1616年(元和2)に鶴山に完成させた平山城です。明治の廃城令で建造物は取り壊されましたが、2005年には「備中櫓(やぐら)が復元され、現在では鶴山公園として西日本有数の桜の名所となっています。また、市内を流れる吉井川には河童が生息していたという言い伝えが残っており、夏の時期にはごんごの名を冠した「津山の納涼ごんごまつり」が開催されるなど、市民に親しまれる存在となっています。(抜粋)



戦国  
武将

もり ただ まさ

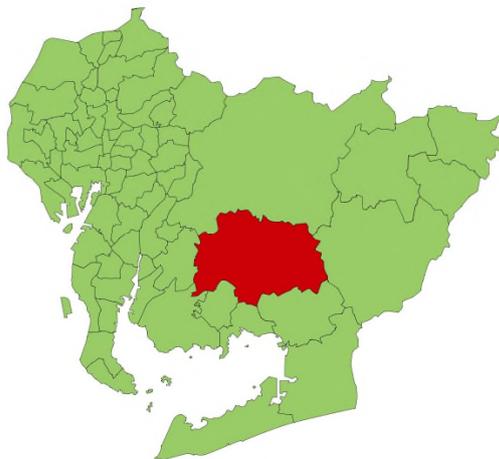
森 忠政公



### ゆかりの地

忠政公(森蘭丸の弟)は、後に徳川家康公に仕え、第二次上田合戦とその後始末(真田氏降伏と上田城開城)の功により美作(みまさか)国津山の初代藩主となった。忠政公は新たに津山城(岡山県津山市)を築城し、往時は外郭を含めて姫路城をしのぐ77棟の櫓(やぐら)が建ち並んだ。また城下の街づくりを始め、現在の津山の礎を築いた。

### 上田合戦



### デザインの由来

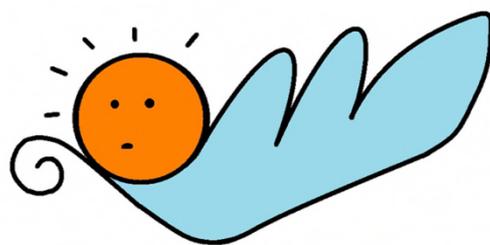
東海オンエアのメンバーがマンホールを作りたいとTwitter上でつぶやいていたことから、このデザインマンホール蓋が実現しました。愛知県在住のイラストレーター「みぞぐちともや」氏による東海オンエアのデフォルメキャラを使用したイラスト調のデザインになっています。

また、このデザインマンホール蓋には、AR機能を搭載し、マンホールにスマートフォンをかざすと東海オンエアの画像が映し出され、メンバーとの記念撮影を楽しむことができます。

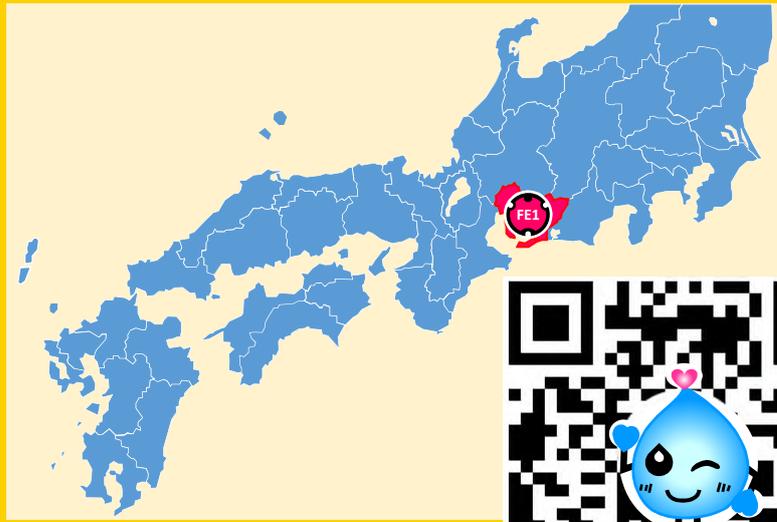
東海オンエアメンバー6人とオンエアバードの計7種のマンホールが市内各所に設置されています。



岡崎観光伝道師「東海オンエア」



オンエアバード



### デザインの由来

1987年に市制70周年を記念して、乙川南部地区用にデザインしました。この蓋に描かれているお城は、江戸幕府を開いた徳川家康公が生を受けた場所として知られる「岡崎城」です。そして、前面には、全国桜の名所百選に選ばれた岡崎公園の「桜」、背景には岡崎の夏の風物詩でもある伝統の「三河花火」を描きました、いにしえより東西交通の要衝として栄えた岡崎市、その悠久の歴史と伝統に育まれた魅力たっぷりのデザインになっています。(抜粋)



### 戦国 武将

とくがわ いえやす

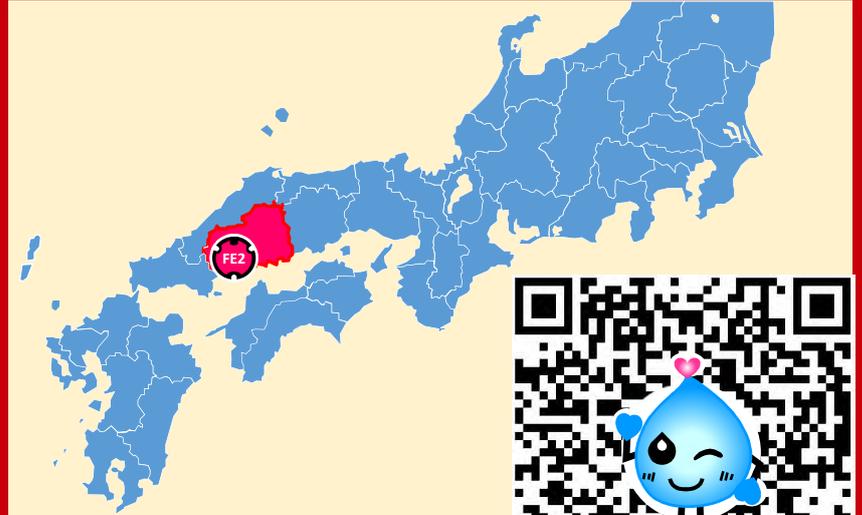
### 徳川家康公

### ゆかりの地

関ヶ原の戦いに勝利した家康公は、江戸幕府を開き、世界に類を見ない約260余年に及ぶ天下泰平の世を築いた。かつて生まれ故郷の大樹寺(だいじゅうじ、愛知県岡崎市)で自害を思い止まり、「厭離穢土(えんりえど)欣求浄土(ごんぐじょうど)(戦乱の世を浄土(平和)にする)」の教えを胸に天下統一を自らの役目と決意してから実に43年、ようやく生涯を掛けた悲願を成就することができた。



関ヶ原の戦い  
(東軍)



### デザインの由来

広島が川のまちとして発展し、かつて江戸時代の城下町の日抜き通りであった西国街道のなりわいを浮世絵風にしたデザインです。広島城下町で働く職人として紙商人、仏壇作り、舟運を用い、人物を大きく配置することで活気あふれるワンシーンを表現しました。西国街道(近世の山陽道)は西国の諸大名の参勤交代や長崎奉行、幕府代官などが往来する道として五街道に次ぐ重要な街道の一つでした。このデザインマンホールふたは、西国街道のうち、広島電鉄猿猴橋(えんこうばし)町駅付近から中央通りまでの路線を設置対象とし、令和3年度からは、東区、西区、安芸区、佐伯区にも対象路線を拡大しています。



## 戦国 武将 福島正則公

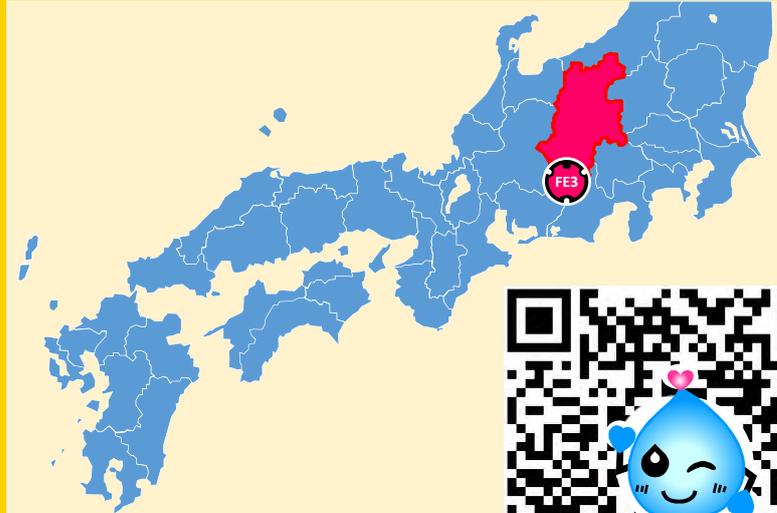
ふくしま まさのり

### ゆかりの地

関ヶ原合戦後、安芸・備後両国(広島県)の領主となった正則公は、まず経済的基盤を確立するため、領内の検地に基づく年貢徴収制度を整備した。また広島城下の発展のため、西国街道を城下に引き入れ、町人の居住区を拡大、東西2ヶ所に市を立て、商業の発展を図った。

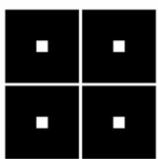


関ヶ原の戦い  
(東軍)



デザインの由来

飯田市は1947年に市街地の大半を焼失する大火に見舞われました。その大火からの復興の過程でつくられたのがりんご並木です。りんご並木には約300mの道路に13種類26本のりんごの木が植えられ、飯田市のシンボルとして市民に親しまれています。飯田市のマンホール蓋は、シンボルであるりんごの木と市章をデザインしたもので、市民による人気投票で決定しました。(抜粋)



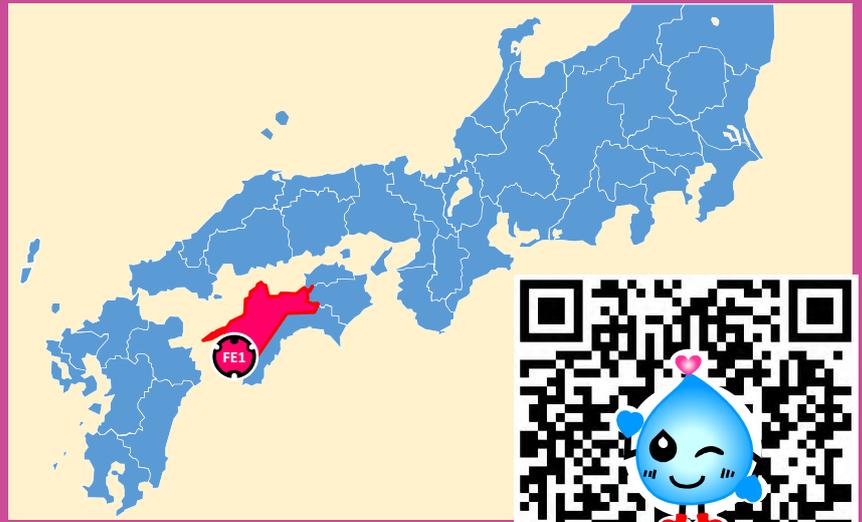
戦国 武将 きょうごく たかとも  
京極高知公

ゆかりの地

豊臣秀吉公に仕え、信濃飯田城主となった高知公は、下町の整備に力を入れ、現在の飯田市の基礎を作った。キリシタン大名としても知られ、領内にキリスト教の布教を許可した。関ヶ原の戦いでは東軍に参加し、その功績により丹後国宮津藩(宮津城)初代藩主となった。



関ヶ原の戦い (東軍)



### デザインの由来

大洲市内を流れる一級河川「肱川」と、その清流で行われる「大洲のうかい」、そして、大洲盆地中心部に位置する富士山(とみすやま)の「ツツジ」をデザインしたマンホール蓋です。大洲のうかいは日本三大鵜飼のひとつに数えられ、屋形船と鵜船並走することから、見物客は、鵜が鮎を捕える様子を間近に見ることができます。一方のツツジは市の花木で、春の大型連休になると富士山では約6万3千本が咲き誇り、まるで赤やピンクの帽子をかぶったように鮮やかな装いを見せます。(抜粋)



### 戦国 武将

とうどう たかとら

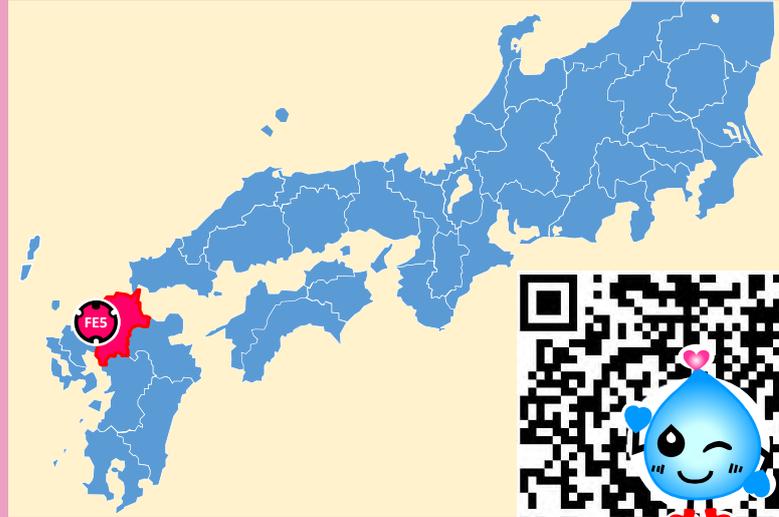
## 藤堂高虎公

### ゆかりの地

「武将たるもの7度は主君を変えねば本当の武士とは言えぬ」という名(迷)言を残した高虎公。実際に仕えた主君は三英傑をはじめ7人以上に上る。城作りの名人としても知られ、豊臣家臣時代、7万石の領主として大洲城へ入り、近世の城郭へと拡張整備した。



関ヶ原の戦い  
(東軍)



### デザインの由来

福岡市は野鳥の観察スポットとして知られ、1日に100種類以上の野鳥と出逢うことも珍しくありません。また、海岸には約540隻が収容できるヨットハーバーがあり、マリンスポーツの街としてのにぎわいも見せています。平成2年に下水道の普及人口が100万人を突破したことを記念して、「下水道施設のイメージアップと市にふさわしい個性的なデザイン」をテーマに、マンホール蓋のデザインを募集し、全国735点の応募作品の中から見事選ばれたのがこのデザインです。(抜粋)



戦国  
武将

くろ だ なが まさ

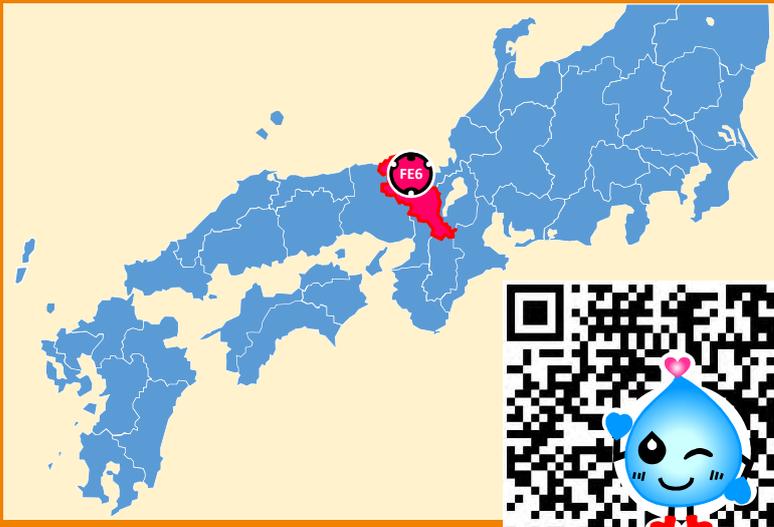
黒田長政公

### ゆかりの地

関ヶ原合戦後、筑前(福岡県北西部)50万石を拝領した長政公は、流通・経済・商業の中心地となる都市形成に相応しい場所として「福崎」を選び、黒田家ゆかりの備前福岡に因んで「福岡」に改称、7年がかりで巨大城郭を持つ福岡城を完成させた。



関ヶ原の戦い  
(東軍)



デザインの由来

宮津市は京都府の北西部に位置し、風波穏やかな天然の良港宮津港を中心として日本海若狭湾に面し、特別名勝「天橋立」をはじめとする海岸線や大江山連峰、世屋高原は丹後天橋立大江山国定公園に指定され、さまざまな自然風景をみることができます。天橋立は見る方向によって名称が付けられており、天橋立ビューランドから見る「飛龍観」、笠松公園から見る「昇龍観」、大内峠から見る「一字観」、獅子崎・雪舟観展望所から見る「雪舟観」で、これらは「天橋立四大観」と呼ばれています。宮津市のマンホール蓋には「飛龍観」がデザインされています。



戦国 武将 ほそかわ ただおき  
細川忠興公



ゆかりの地

戦国時代の初め、一色氏が支配していた丹後を織田氏が制圧すると、細川忠興公の父藤孝公が新たな拠点となる宮津城(京都府宮津市鶴賀)を築造した。これは、丹波・丹後・但馬攻略に続く中国・毛利攻めを意識した戦略的なもので、宮津湾岸への築城は、本格的な海城(うみじろ)の先駆けであったと言われている。

関ヶ原の戦い (東軍)



### デザインの由来

法興6年(596年)、道後に来浴した聖徳太子は、椿が生い茂る温泉郷の壮観なさまを見て、これを称える言葉を書き残したと伝えられています。古くから松山の人びとに愛されてきた「椿＝ヤブツバキ」は、昭和47年、市の花に選定されました。本マンホールの蓋のデザインは赤や薄紅のヤブツバキを描き、花の周りには、日本三大緋(かすり)のひとつ「伊予かすり」の井桁文様をあしらっています。制作は市政百周年記念事業(1989年)の一環として進められ、1991年に意匠の一部を修正して今に至ります。(抜粋)



### 戦国 武将

かとう よしあき

### 加藤嘉明公

### ゆかりの地

豊臣恩顧で武断派の嘉明公は筆頭大老・徳川家康公に従っていたため、関ヶ原合戦後、伊予で20万石の大名に出世した。そこで新たな拠点となる城と城下町の整備を始め、本拠地を正木(伊予・松前城)から勝山に移し、この時、地名を松山に改名した。



関ヶ原の戦い  
(東軍)



デザインの由来

伊賀流忍者発祥の地である伊賀市。平成29年2月22日(にんにんにん)の「忍者市」宣言に続き、同年4月28日には伊賀忍者が日本遺産に認定されました。伊賀市は伊賀忍者をさらに広くアピールするため、3人の伊賀忍者と市の花「ササユリ」、市の木「アカマツ」、市の鳥「キジ」をあしらった象徴的なデザインのマンホール蓋を制作しました。伊賀には、戦乱の世を駆け抜けた忍者の文化と伝統が今なお息づいています。(抜粋)



戦国 つつ い さだ つぐ  
武将 筒井定次公

ゆかりの地

織田家臣だった定次公は、本能寺の変後に豊臣秀吉公に従臣した。ここで秀吉公が行った領国内の大規模な国替えにより、大和国から伊賀国上野に移封された定次公は、近世城郭としての伊賀上野城を築いた。



関ヶ原の戦い  
(東軍)



### デザインの由来

公共下水道事業のイメージアップを図るため、彦根市の市政施行50周年を契機として採用したマンホール蓋で、中央に大きな市章と小さな市章を幾何学的に複数配置し、外周にデザイン化した市の木「たちばな」をあしらっています。市章は、市のランドマーク「彦根城」が金亀山(こんきやま)に立地していることから、亀甲をかたどり、外枠右側に「ヒ」、左側に「コ」、中心に「ネ」を配して図案化したものです。(抜粋)



## 戦国 武将 井伊直政公

い い なおまさ

### ゆかりの地

井伊家は、江戸時代を通じて彦根藩主として近江国東部を中心とした一帯を治め、譜代大名筆頭の家格を誇った。初代藩主・直政公は、徳川四天王に数えられ、家康の天下取りを全力で支えた功臣であり、現在の彦根市の発展の基礎を築いたが、彦根城築城の最中、関ヶ原での鉄砲傷が悪化して死去した。



関ヶ原の戦い  
(東軍)



### デザインの由来

「瓜生島伝説」をモチーフにデザインしたマンホールです。キリシタン大名として知られる大友宗麟が生きた時代、南蛮貿易の窓口として栄えた島であったとされる幻の「瓜生島」の様子が描かれています。その港に浮かぶ異国情緒あふれる南蛮船から積み下ろしされる象・孔雀・虎や螺鈿細工の箱などの品々が描かれています。港に行き交っているのは、南蛮より訪れた異国の人々です。(抜粋)



### 戦国 武将

たけなか しげとし

## 竹中重利公

### ゆかりの地

西軍・黒田官兵衛公に嫡男・重義公を従軍させた功績により、豊後府内3万5千石を拝領した。ここで大分城(おおいたじょう、大分県大分市)の大改修を行うため熟練の石工や大工を招聘し、最先端の技術を駆使して4層天守と大規模城郭を完成させた。また港や城下町も整備するなど現在の大分市の発展の基礎を築いた。



関ヶ原の戦い  
(東軍)

95

151

ふくおか

やながわ

福岡県

柳川市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

柳川市は福岡県南部、筑後平野の西南端にあり、市域の中心部には旧柳川藩の城下町があります。マンホールふたは水郷柳川の舟下りの場面がデザインされています。約420年前、柳河城(やながわじょう、柳川城)築城のおりに、城下町を形成するために人工的に堀を掘って水運が整備されました。そこには治水・利水のための水利体系が整備され、先人の知恵による様々な仕組みが今なお息づいています。



戦国  
武将

たなか よしまさ

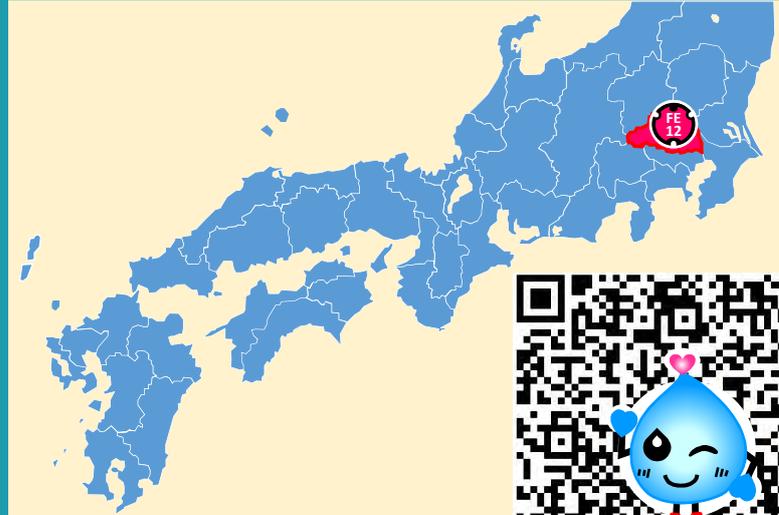
田中吉政公

### ゆかりの地

吉政公は、羽柴家、徳川家に仕え、転封の過程で居城とした近江国八幡(滋賀県近江八幡市)、三河国岡崎(愛知県岡崎市)、筑後国柳川(福岡県柳川市)で大規模な総構えを誇る城郭、城下町を整備した。特に柳川では水路(掘割、用水路)・陸路(街道)の整備に加え、治水事業や有明海の干拓事業にも力を注いだ。



関ヶ原の戦い  
(東軍)



### デザインの由来

忍(おし)藩10万石の城下町を今に伝える忍城址のシンボル「御三階櫓」と、市の花「キク」を中央に配置し、周囲に市の木である「イチョウ」の葉を並べたデザインとなっています。忍城は、関東七名城の一つで、豊臣秀吉(石田光成)の水攻めにも落城しなかったことから「浮き城」と呼ばれています。行田市は下水道の歴史が古く、昭和25年に埼玉県内で3番目に下水道事業に着手しました。平成に入って新たな地区を整備する際、下水道に関心を持ってもらおうと、この市民に親しみのある忍城のデザイン蓋を採用しました。(抜粋)



### 戦国 武将

まつだいら ただよし

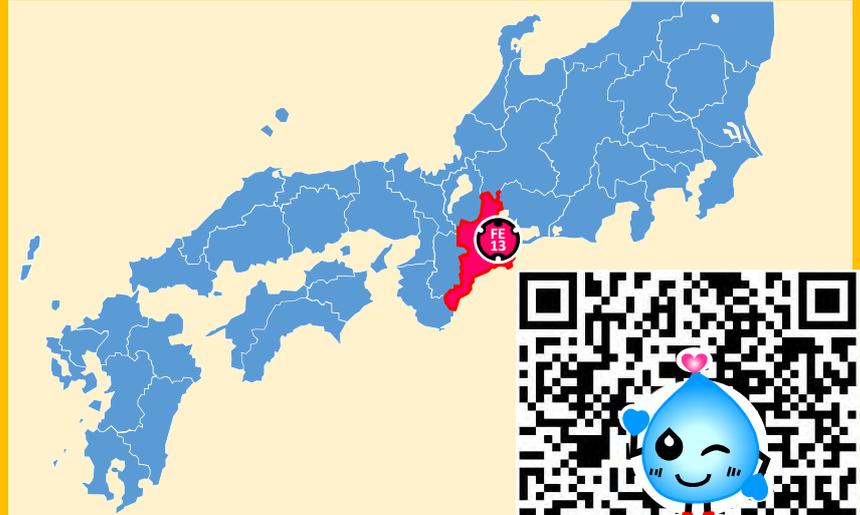
## 松平忠吉公

### ゆかりの地

忠吉公(家康公の四男)は、家康公の関東移封後に武蔵国忍(むさしのくにおし、埼玉県行田市)10万石の城主となり家老小笠原吉次の下で治水工事や新田開発を行った。関ヶ原の戦いの功績により尾張国に転封となったが、以降、忍藩は江戸幕府の防衛拠点として天領(徳川直轄領)となり、代々幕府重臣が治めた。



関ヶ原の戦い  
(東軍)



デザインの由来

松阪市が世界に誇るブランド「松阪牛」を、子供から大人まで幅広い年齢層に親んでもらいたい。そんな思いから、オリジナルキャラクターの「うし」を図案化し、制作したマンホール蓋です。デザインの背景には草原と牧場を描いて遠近感を出し、広大なみどりを表現しました。「うし」が首にさげている鈴は、「駅鈴」をモチーフにした絵柄に松阪市章を採り入れたもの。鈴をこよなく愛した松阪出身の国学者・本居宣長にちなみ、市内には鈴に関連する施設やイベントが多く、松阪のシンボルとして広く受け継がれています。マンホール巡りと併せて、街の雰囲気もお楽しみください！



戦国 武将 ふる た しげ かつ  
古田重勝公



ゆかりの地

豊臣家臣として伊勢国松坂城を与えられたが、徳川家康公と共に会津征伐に参加した。西軍拳兵の報を受け急ぎ帰国し、松坂城に籠って西軍方と対峙した。また安濃津(あのうつ)城に援兵50人を送るなど西軍を引き止めた。戦後、この伊勢方面での功績により2万石を加増され伊勢松坂5万5000石の大名となった。

関ヶ原の戦い (東軍)



### デザインの由来

大阪市は水運に支えられ、経済と文化の中心都市として発展した水の都です。下水道の原型は、豊臣秀吉による大阪城築城と城下町の整備に合わせて造られました。近代下水道の事業着手100周年を迎える平成6年に市民公募による新たなデザインのマンホール蓋が誕生しました。色鮮やかなデザインは、下水道の原点とも言える大阪城に市花のサクラと水流を組み合わせたもの。都市と水の調和がバランスよく表現されるとともに、下水道の歴史と大阪城の力感が伝わり、将来の大阪市の力強い発展をイメージさせます。(抜粋)



### 戦国 武将

おだながます

## 織田長益公

### ゆかりの地

織田信長公の弟、長益(有楽斎/うらくさい)公は、関ヶ原の戦いでは東軍に属し、戸田重政、内記親子の首を取るなど大功を挙げた。戦後も豊臣家に出仕を続け、大坂冬の陣では大坂城にあって穏健派として豊臣家を支える中心的な役割を担った。しかし大坂夏の陣を前に京都に隠棲(いんせい)し、茶の湯に専念した。



関ヶ原の戦い  
(東軍)



### デザインの由来

一之宮町をイメージする

「位山」「臥龍桜」「宮川」を描いたマンホール蓋です。日本二百名山のひとつである位山は分水嶺の山で、古くから霊山として信仰されているほか、位山のイチイの木で作られた笏（しゃく）が現在でも天皇即位に際して献上されており、由緒ある山として知られています。位山に流れた溪水は、神通川の源流宮川に注ぎ日本海へと流れていきます。臥龍桜は樹齢約1100年余りを誇る江戸彼岸桜で、龍が臥したような枝振りから臥龍桜と命名されたと言われています。（抜粋）



### 戦国 武将

かなもり ながちか

## 金森長近公

### ゆかりの地

戦国の三英傑に仕えた長近公は、戦国時代の勝者として知られる。秀吉公の命による飛騨討伐では、短期間で混乱した飛騨国を一掃・統一した。この功績により飛騨一国を与えられた長近公は高山を拠点に定め、高山城の築城に着手。城下町も整備し、これが観光地として現在名高い飛騨高山の街並みの基礎となった。



関ヶ原の戦い  
(東軍)

100 / 151

かがわ まるがめ  
香川県 丸亀市

全国 岡山県 愛知県 岡崎市 ゆかり



デザインの由来

現存木造天守十二城の一つに数えられる丸亀城。その城下町として400年あまりの歴史を誇る丸亀市は、「うちわのまち」としても知られ、その生産量は全国の約90パーセントを占めます。本マンホール蓋のデザインは、これら丸亀のシンボルをモチーフに制作したもの。丸亀城は石垣の名城として有名で、大手門から見上げる天守は威厳に満ち、夕暮れの天守は優しさをまとって訪れる者の心を和ませます。また、うちわのデザインには「丸亀城」、「朱赤に丸金印」、「立鼓(りゅうご)」がそれぞれ描かれています。(抜粋)



戦国 武将 いこま かずまさ  
生駒一正公

ゆかりの地

豊臣勢による一連の四国攻めの戦後処理が終わると、政権の元老として数々の功績を挙げた父親正(ちかまさ)公が讃岐国の領主となった。ここで嫡男の一正公と共に高松城の支城として、丸亀の亀山砦の大改修に着手した。こうして丸亀城と城下町が築かれ、治世の下地が整った。



関ヶ原の戦い (東軍)



## デザインの由来

唐津市は、佐賀県北西部の位置にあり、佐賀県全体の約20%の面積割合を占めています。マンホールふたは玄海灘の荒波と松がデザインされ、唐津湾沿いに虹の弧のように連なる松原は日本三大松原のひとつに数えられています。唐津藩初代藩主、寺沢志摩守広高が防風・防潮林として植林したのが始まりで全長約4.5km、幅約500mにわたって続いています。

戦国  
武将

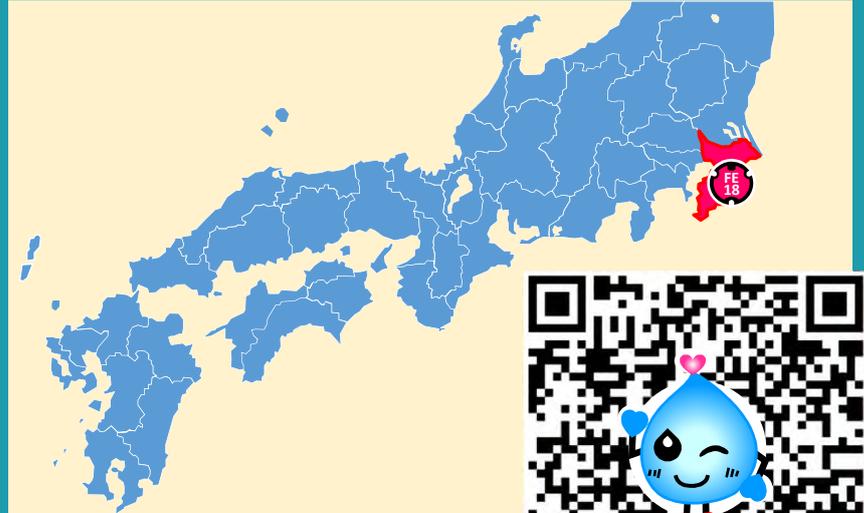
てらさわ ひろたか

## 寺沢広高公

## ゆかりの地

広高公は豊臣政権下で肥前国唐津を拝領、秀吉公の死後は徳川家康公に近づき、関ヶ原の戦いで東軍に与して戦功を挙げ、初代唐津藩主となった。ここで城下町の整備に着手し、唐津城の縄張、河川改修、新田開発など多くのまちづくりを実施した。この中に街道整備と新田の塩害防止のための松の植林があり、現代に続く、唐津の景観の基礎を作った。

関ヶ原の戦い  
(東軍)



### デザインの由来

大多喜町は千葉県房総半島のほぼ中央に位置し、千葉県の町村で最も広大な面積を有し、森林が総面積の約70%を占める緑に包まれた町です。マンホールふたのデザインは町章、町の花・さくら、徳川四天王のひとり、本多忠勝を初代城主とする大多喜城がデザインされています。春は大多喜城の桜、秋は養老溪谷の紅葉など歴史と自然をセットでお楽しみください。



## 戦国 武将 ほんだ ただかつ 本多忠勝公

**ゆかりの地** 戦国最強の武将と謳われた家康公の忠臣・忠勝公は、関東移封となった家康公から上総国(かずさのくに)夷隅(いすみ)郡大多喜(千葉県夷隅郡大多喜町)10万石が与えられた。城主となった忠勝公は、江戸の防衛拠点として、本丸・二ノ丸・三ノ丸を配置し、四方を河川と堀で囲んだ難航不落の近世城郭へと大改修した。



関ヶ原の戦い  
(東軍)



### デザインの由来

由良川流域の福知山盆地にひらける福知山市は昭和12年に京都府で2番目の市として誕生しました。マンホールふたのデザインは天正7(1579)年織田信長の命で丹波を平定した明智光秀が築いた福知山城と、その福知山城大改修の際、領民らがドッコイセ、ドッコイセと手振り足振り面白く唄いながら石材、木材を城に運んだと伝わる伝統的な文化「ドッコイセ踊り」があしらわれています。



戦国  
武将

ありま とようじ

有馬豊氏公

### ゆかりの地

福知山は丹波攻略のために明智光秀公が福知山城を築いて治めていたが、この頃より城下町の整備が行われてきた。その後、関ヶ原の戦いを経て初代福知山藩主となったのが豊氏公であった。豊氏公は、福知山城や城下町の更なる整備を行なうと共に、検地を行なうなどして、藩政の確立に尽力した。



関ヶ原の戦い  
(東軍)



## デザインの由来

1993年に日本初の世界文化遺産に登録された国宝「姫路城」のデザインマンホール蓋です。2015年3月に同城の「平成の大修理」が終わったことを記念して制作しました。城郭は池田輝政が1601年から約9年をかけて完成させたと伝えられ、天を突く天守閣群と美しい白壁の広がり、まるで飛び立つ白鷺のようです。姫路城が別名「白鷺城」と呼ばれるのも、うなずけます。また、のちに天下人となる秀吉が居城したことから「出世城」の異名を持つほか、長い歴史で一度も戦火や災害の被害を受けておらず「不戦・不焼の城」とも呼ばれます。（抜粋）



戦国 武将 いけだ てるまさ  
池田輝政公



## ゆかりの地

織田氏の家臣一族だった輝政公は、豊臣政権では武断派として筆頭大老・徳川家康公に従っていた。その人柄を信頼した家康公は、関ヶ原合戦後に播磨国姫路52万石を与えた。藩主となった輝政公は、姫路城の大規模改修に着手し、同時に加古川流域の改修などを始め、下流域の高砂のまちづくりにも尽力した。

関ヶ原の戦い  
(東軍)



### デザインの由来

「てんてんてんまり てんてまり…」で始まる童謡「毬(まり)と殿様」に登場する紀州徳川家の和歌山城。お城の姫君たちに愛され、城下の女性たちが競うように作ったといわれる手まりは、現在のお城で流れるチャイムに冒頭のメロディが使われるほど、和歌山城に縁の深いものです。和歌山市の公共下水道に手まりのデザインマンホール蓋を採用したのは1996年。愛らしい手まりを蓋から弾み出しそうなほどにぎやかに配置し、手前のいちばん大きい手まりの中心に市章をあしらいました。(抜粋)



### 戦国 武将

あさの よしなが

## 浅野幸長公

### ゆかりの地

紀伊和歌山藩の初代藩主は豊臣恩顧の幸長公で、関ヶ原の戦いでの功によるものだった。和歌山城は豊臣秀吉公による紀州攻めの拠点として築城されたが、幸長公は37万石に相応しい城にするため大規模改修を行った。また町割りにより城下町の形を整え全領域の検地を実施するなど、藩政の基盤作りに尽力した。



関ヶ原の戦い  
(東軍)

106

151

しずおか

かけがわ

静岡県

掛川市

全国

岡崎市

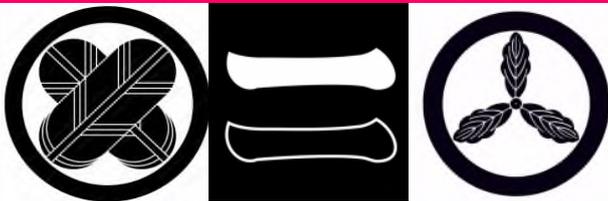
愛知県

ゆかり



### デザインの由来

掛川市の観光名所のひとつである「掛川城」と市の花である「ききょう」を描いたマンホール蓋です。掛川城は室町時代、駿河の守護大名であった今川氏が遠江進出を狙い、家臣の朝比奈氏に命じて築城させたのがはじまりです。その後、戦国時代には、山内一豊が城主として大改築を行いました。マンホール蓋には、平成6年(1994年)4月に「東海の名城」と呼ばれた美しさそのままに、日本初の「本格木造天守閣」として復元した姿を描いています。(抜粋)



戦国 山内一豊公  
やまうち かずとよ  
武将

### ゆかりの地

先を見越す能力に長けた一豊公は、「三英傑」全員に仕えて大出世を果たした。関ヶ原の戦いでは、東軍方に参加し、当時の居城・掛川城を差し出すと言って家康公の信頼を得た上、その功績により土佐国高知城の城主として余生を過ごした。



関ヶ原の戦い  
(東軍)



### デザインの由来

平成17年に新米原市として合併した3町のうちの旧山東町のマンホールふたです。「鴨とホタルの里」を基に親子、家族のふれあいを表した三島池のマガモと元気に光を放つ国の天然記念物の指定を受けた天野川のゲンジホタルが描かれています。旧山東町朝日の観音護国寺は三成と秀吉の出会いの場です。

# 大善

## 戦国 武将

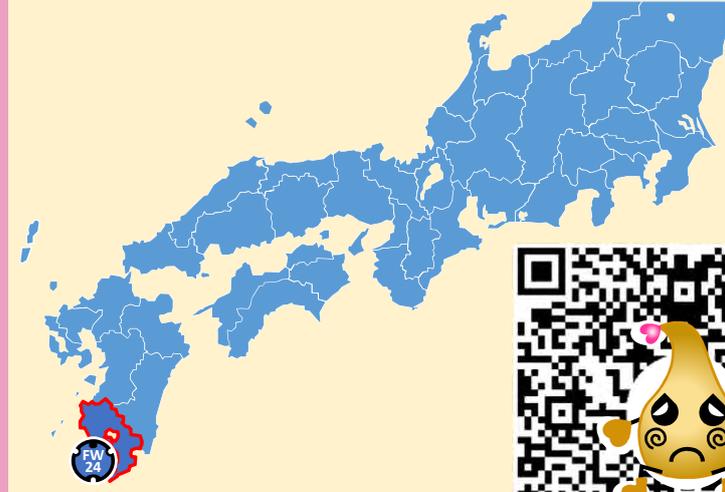
いしだ みつなり

# 石田三成公

### ゆかりの地

豊臣家第一の忠臣・石田三成公と主君・秀吉公が出会ったのが観音護国寺（滋賀県米原市）。寺の小僧だった三成公が、鷹狩りで立ち寄った秀吉公に茶を献じて、「三椀の才」で見出されたという逸話は有名。皮肉にも関ヶ原からは僅か10キロ余り。もし2人が出会っていなければ、戦国の歴史はどうなっていたらうか。

関ヶ原の戦い  
(西軍)



## デザインの由来

中央に大きく描かれている兜は、関ヶ原の戦いにおいて敵陣を正面突破（敵中突破）し、故郷の鹿児島に帰還した島津義弘公の甲冑をモチーフとしたものです。義弘公の勇氣ある行動はやがて、鹿児島県の3大行事に数えられる「妙円寺詣り」へとつながりました。妙円寺詣りとは、義弘公の菩提寺・妙円寺までの道のりを鎧・兜で身を固めて参拝する行事のことで、毎年大勢の参加者が訪れます。一方、兜の上に刻まれているのは日置市章です。これは日置市の頭文字「ひ」に、南国の太陽を組み合わせたもの。歴史や自然の調和を活かした都市づくりを目指し、未来へ羽ばたく躍動感が表現されています。（抜粋）

戦国  
武将

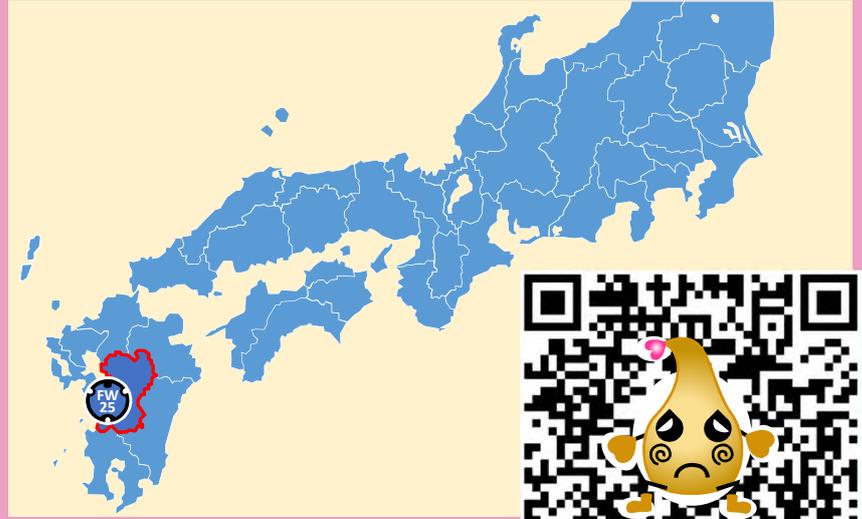
しまづ よしひろ

島津義弘公

## ゆかりの地

島津本家の力が衰え、薩摩各地が混乱した戦国時代、伊作島津家（鹿児島県日置市）では、16代当主義久公（義弘公の兄）の下、島津軍の総大将として指揮を執り、多くの武功を挙げた。弱体化した本家を建て直すと、三州（薩摩・大隅・日向）を統一、九州全土に勢力を広げたが、豊臣秀吉軍の九州征伐に屈して臣従した。

関ヶ原の戦い  
（西軍）



### デザインの由来

一面に大きく描かれている「晩白柚(ばんぺいゆ)」は八代市特産の世界最大級の柑橘です。重さは最大5kg近くにもなり、「最も重いザボン類」としてギネス認定もされています。原産地はマレーシア半島といわれますが、日本には昭和5年に台湾から入ってきました。その後、昭和26年に八代地方へ植栽されると瞬く間に普及し、現在では本市の市木として制定されるなど、市民に愛される柑橘となりました。晩白柚の下に描かれているのは「い草」。畳の材料などに使われる植物で、本市が日本一の生産量を誇ります。(抜粋)



### 戦国 武将

こにしゆきなが

## 小西行長公



**ゆかりの地** 豊臣政権の九州平定により、肥後国の南半国、宇土(うど)、益城(ますき)、八代(やつしろ)の三郡20万石余りを行長公に与えた。行長公は当時九州を代表する港・徳湊津(とくぶちのつ)の重要性に着目し、隣接地に麦島城(熊本県八代市)を築造した。こうして八代は城下町、門前町、港町が融合した肥後最大の都市に繁栄した。

関ヶ原の戦い  
(西軍)

## 151 岐阜県不破郡 関ヶ原町



## デザインの由来

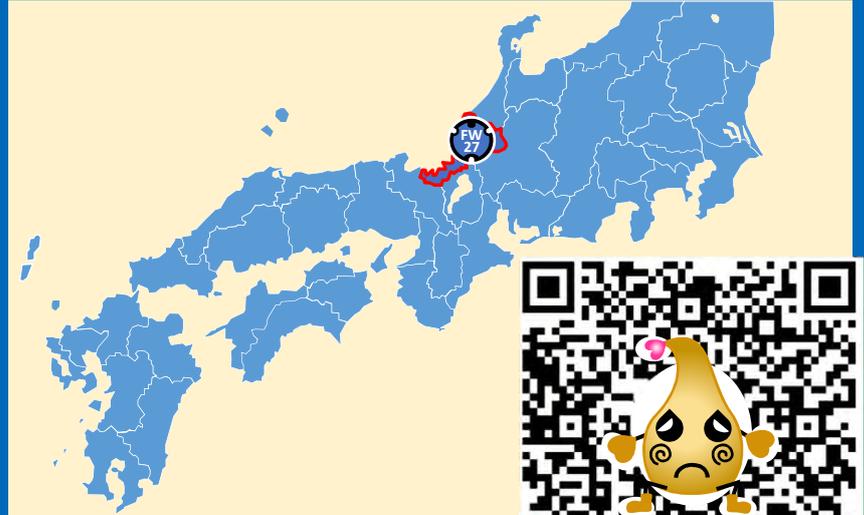
関ヶ原町は岐阜県の西端に位置し、北は伊吹山を主峰とする伊吹山地、南は鈴鹿山脈に囲まれています。平野部でも海拔100m～200mの高低差があり、変化の多い地形が特徴で、東西8.1km、南北12.5kmの町です。町土の約80%を山林が占め、豊かな緑と史跡に恵まれ、古来より交通の要衝として栄えて、天下分け目の戦いが二度(壬申の乱・関ヶ原の戦い)行われた地としても有名です。マンホールふたの中央には町章、周囲に町の花・ウメ、町の木・スギ・関ヶ原合戦のイメージの兜がデザインされています。

戦国 うき た ひでいえ  
武将 宇喜多秀家公

## ゆかりの地

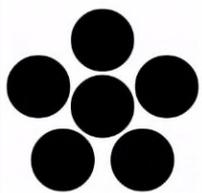
豊臣政権・五大老の一人で、家督を継いだ幼少時から豊臣秀吉公に重用されていた。関ヶ原の戦いでは西軍の副総帥として参戦し、主力部隊1万7千を率いて最前線の南天満山(みなみてんまやま、岐阜県関ヶ原町)に布陣した。ここに東軍・福島隊が切り込んで開戦となり、最も激しい攻防が繰り広げられる戦場となった。

関ヶ原の戦い  
(西軍)



## デザインの由来

1989年に市制100周年を迎えた福井市が、記念事業の一環として制作したのがこのマンホール蓋です。デザインは一般公募作品の中から選定しました。ライトブラウンとダークブルーの2羽の不死鳥が点対称に描かれ、躍動感あふれるデザインとなっています。不死鳥は赤や金の翼を持ち、死期が近づくと自ら火の中に入って焼かれ、その灰の中から再生すると言われます。そんな伝説の鳥が福井市民にとって特別な存在であるのは、福井市が戦災や震災などの重なる災禍にめげず、三たび立ち上がった歴史を持つからです。福井市市民憲章は「不死鳥のねがい」と名付けられ、大切に受け継がれています。(抜粋)

戦国  
武将

とだ しげまさ

戸田重政公

## ゆかりの地

南北朝時代の軍記物「太平記」に登場する越前・安居(あご)城(福井県福井市)は、朝倉氏、織田氏の支配を経て、豊臣政権の下で秀吉公の直臣となった重政(勝成とも言う)公が城主となった。

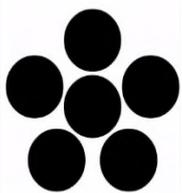
関ヶ原の戦い  
(西軍)



## デザインの由来

垂井町の春の風物詩で

ある、「相川鯉のぼり一斉遊泳」を中心に、春の花「椿」が周囲に配置されたデザインとなっています。「相川鯉のぼり一斉遊泳」は、毎年3月下旬から5月上旬に行われる垂井町を代表するイベントで、町内を流れる相川上空を350匹の鯉のぼりが、雪が残る伊吹山と堤防にならぶ200本のソメイヨシノを背景に泳ぎます。これらを同時に写真に収めることができる場所は、全国的に見ても非常に珍しく、インスタ映え間違いなしの撮影スポットです。(抜粋)

戦国  
武将

ひらつか ためひろ

## 平塚為広公

## ゆかりの地

豊臣家臣だった為広公は数々の武功を挙げた忠臣で、秀吉公死後も秀頼公に仕え、その忠義によって美濃垂井1万2000石を与えられ垂井城主となった。関ヶ原は垂井にほど近く、いち早く着陣した為広公は、本戦では病身を押して戦った大谷吉継公の盟友として、大谷隊と平塚隊の両軍を指揮したと伝わる。



関ヶ原の戦い  
(西軍)



### デザインの由来

日本三大松原に数えられる「気比の松原」を近景に描き、そこから望む「立石岬灯台」と敦賀の鳥「ユリカモメ」を描いた、「松灯台」の名を持つマンホール蓋です。立石岬灯台の歴史は古く、明治14年、石造り灯台として初めて日本人のみの設計・施工で建てられました。その後、同32年には敦賀港が開港場に指定され、敦賀市は日本海側の主要な国際港湾都市として発展しました。本マンホール蓋は、平成11年、敦賀港開港100周年を記念してつくられたものです。（抜粋）



### 戦国 武将

おおたによしつぐ

## 大谷吉継公

### ゆかりの地

豊臣秀吉公が天下を統一すると世は戦国期から復興の時代に移った。この時、敦賀城主となったのが吉継公だった。吉継公は、日本海航路で最大の湊（みなと）を擁し、軍事・物流の最重要拠点であった敦賀城下の整備拡大に尽力した。敦賀は当時、最も先進的な商業の町、「北国の都」と言われるほど繁栄した。



関ヶ原の戦い  
（西軍）



### デザインの由来

現行デザインを使い始めたのは、1986年から。岡山市は桃太郎伝説の由来となった吉備津彦命(きびつひこのみこと)の温羅(うら)退治の物語が残されているまちです。岡山市民のシンボリックな存在で、市民に愛されている桃太郎を岡山市の職員がマンガチックにデザインしました。岡山城跡、後樂園、各種美術品・博物館、ホールが多数集積する、「岡山カルチャーゾーン」から設置を始めました。当初は「桃太郎を足で踏みつけるのか」との声もあったようですが、今では「桃太郎のまちおかやま」ならではのおもてなし、「ももてなし」に一役買っています。(抜粋)



## 戦国 武将 小早川秀秋公

こばやかかわ ひであき

### ゆかりの地

豊臣家一族の秀秋公は、丹波国亀山城主、筑前国名島城主を経て、関ヶ原の戦いの論功行賞で備前国岡山城主となった。秀秋公は21歳で急死するまでの僅か1年10ヶ月の間、城と城下町の改修・拡張を行った。2.5キロにおよぶ新たな外堀「二十日堀」は、領民や家臣までを動員し、20日間の突貫工事で築いたという。

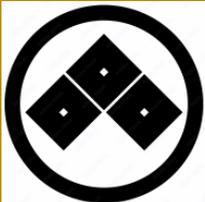


関ヶ原の戦い  
(反応軍)



### デザインの由来

越前市の伝統産業である越前和紙の紙漉(す)きの様子を、地元出身の画家である細井憲摩氏の作品を基にデザイン化したマンホール蓋です。越前和紙の起源は約1500年前、紙祖神とされる川上御前が越前市東部の五箇地区の村人たちに紙漉きの技を伝えたのが始まりとされています。4～5世紀ごろには既に優れた紙を漉いていたことが正倉院の古文書にも示されており、その後、写経用紙、公家や武士の公文書、お札、日本画用紙などにも使われてきました。(抜粋)



### 戦国 武将

あかざなおやす

## 赤座直保公

### ゆかりの地

越前(えちぜん、福井県嶺北地方)は、京都や奈良を窺うのに近すぎず遠すぎずで、奈良時代には越前国の国府(福井県越前市)が置かれ、古来よりこの地で天下を争った。戦国時代にここを治めた朝倉氏の家臣であった赤座氏は朝倉氏討滅後、織田氏に臣従し、越前国守護代の下で仕えた。織田方は直接支配による領民反発を恐れ、朝倉旧臣である直保公に間接統治を任せた。



関ヶ原の戦い  
(反応軍)



### デザインの由来

今治市は、愛媛県の北東部・瀬戸内海のほぼ中央部に位置し、高縄半島と、芸予諸島にまたがっており、中心市街地がある平野部や、緑豊かな山間部、そして、瀬戸内しまなみ海道、安芸灘とびしま海道が架かる世界有数の多島美を誇る島しょ部からなる変化に富んだ地勢となっています。こちらのマンホールふたは宮窪地区の集落排水用で、デザインの荒波の瀬戸内海を航海する村上海賊(村上水軍)はまさに戦国時代を生き抜いた「日本最大の海賊」として伝承されています。マンホールふたが展示されている村上海賊ミュージアムでは、日本遺産認定の村上海賊について詳しく学ぶことができます。



戦国  
武将

おがわ すけただ

小川祐忠公

### ゆかりの地

南北朝時代からの拠点・伊予国分山城(愛媛県今治市)は、豊臣氏の四国征伐後は目まぐるしく城主が変わった。領主を替えながら北近江を拠点としていた祐忠公は、豊臣方として武功を挙げ、伊予国今治7万石の領主となり国分山城に入った。関ヶ原の戦いでは東軍に内応し、死一等を減じられたが改易となった。



関ヶ原の戦い  
(反応軍)



### デザインの由来

平成17年に新市高島市として合併した5町1村のうちの旧高島町のマンホールふたです。旧町の木・松、旧町の花・菊がまわりに描かれて、中央には高島市にある奥高島青少年旅行村というレクリエーション施設が平成4年にガリバー青少年旅行村に変わり、旅行村のシンボルとして高さ7mの銅製ガリバー像が設置されたことでガリバーのキャラクターがデザインされています。



## 戦国 武将 朽木元綱公

くつきもとつな

**ゆかりの地** 朽木氏は朽木谷(滋賀県高島市)を支配した土豪で、織田信長公の朝倉攻めでは、最大の危機に陥った信長公の京都撤退(朽木越え)を助け、後に臣従した。信長公の死後は豊臣秀吉公に仕え、伊勢安濃郡・高島郡内の蔵入地の代官に任せられ、後に高島郡9,203石2斗を安堵されている。



関ヶ原の戦い  
(反応軍)



## デザインの由来

洲本市の花である「水仙」がデザインされたマンホール蓋です。水仙は海岸部の山の斜面など、市内各所に自生しており、真冬の寒風に耐え、清楚な白い花を咲かせています。本市の「水洗」化が進み、快適な生活を送ることができるよう、マンホール蓋のデザインに採用されています。それに加えて、本市の下水処理場である洲本環境センターは「すいせん苑」とも呼ばれており、市の花である「水仙」と、下水道の早期普及による「水洗」化促進の両者を掛け合わせたものとなっています。(抜粋)

戦国  
武将

わきざか やすはる

## 脇坂安治公

## ゆかりの地

淡路国統治の中心であった洲本城(兵庫県洲本市)は、淡路水軍を率いた安宅(あたぎ)氏によって築かれた。その後、豊臣政権下では安治公が在城して紀淡海峡から大阪湾を守備し、今に残る総石垣の城に改修した。この時、天守造営とともに行った石垣の大改修では、朝鮮出兵での経験を活かし、天守と屋家臣敷や港を上下に囲う「登り石垣」が山腹に築かれた。

関ヶ原の戦い  
(反応軍)



### デザインの由来

このマンホール蓋は、毎年8月6日、7日の旧暦七夕に開催される「山口七夕ちょうちんまつり」の様子をデザインしたもので、カラー版は市内の歩道を中心に設置しています。山口七夕ちょうちんまつりは、室町時代の守護大名大内盛見（おおうちもりはる）が先祖の供養のため、お盆の夜に笹竹に高提灯を灯したのが始まりとされています。その歴史は現在に至るまで約600年続き、山口市の夏の風物詩となっています。（抜粋）



### 戦国 武将

もうり ひでもと

## 毛利秀元公

### ゆかりの地

毛利氏は戦国時代に安芸（あき、広島県）を中心に中国（山陽道・山陰道）10カ国を領した。第14代当主輝元公は、長く実子に恵まれず、一族の秀元公を養子としたが、その後、輝元公に実子が生まれたため、秀元公は分家した。長門国・周防国吉敷郡・安芸国佐伯郡、合計17万石あまりが分知され、周防国山口を本拠地に定め、新たに周防長山城（山口県山口市）を築城した。



関ヶ原の戦い  
（傍観軍）

120

151

やまぐち

しものせき

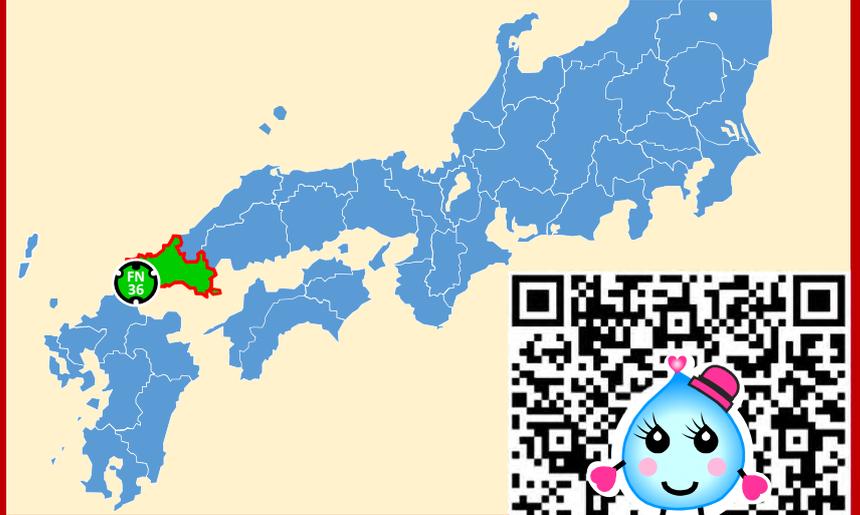
山口県 下関市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

下関市は、本州最西端に位置し、関門海峡、周防灘、響灘と三方を海に開き、古くから陸海交通の要衝、水産都市として発展してきました。下関市の水産物5大ブランドの1つである「ふぐ」は、幸福の「福」にかけて「ふく」と呼びます。このマンホール蓋は、下関市のシンボルマークとなっている「ふく」を、親しみやすく、愛らしく表現し、下関の頭文字「し」を造形化した「波」の中から現れる様子を表しています。また、マンホールカードの配布場所である下関市立歴史博物館は、明治維新発祥の地である城下町長府にあります。（抜粋）



戦国  
武将

もうりひでもと

毛利秀元公



### ゆかりの地

関ヶ原の戦後、毛利一門は西軍との関係を徳川方に疑われ、本領安堵の約束を反故にされた。輝元公の所領は大減封、秀元公の分知された領土も没収された。これを受けた輝元公は、長門国豊浦郡と厚狭郡6万石を秀元公に内分分知し、こうして秀元公は、櫛崎城（くしざきじょう、山口県下関市）に入り長府藩主となった。

関ヶ原の戦い  
（傍観軍）



## デザインの由来

稀代の浮世絵師・歌川広

重の「東海道五拾三次之内草津」を模写したマンホール蓋です。江戸時代後期の草津川の渡しの様子が江戸側（東側）から見た視点で描かれており、対岸には東海道と中山道の分岐点にあたる草津追分の常夜燈が確認できます。草津宿は東海道五十三次の五十二番目の宿場町で、東海道と中山道が分岐・合流する交通の要衝として栄えました。当時の大名や公家などが利用した宿泊施設は本陣と呼ばれ、現存する施設としては全国最大規模で市内に残されており、有料で一般公開もされています。（抜粋）

戦国  
武将

なつか まさいえ

## 長東正家公

## ゆかりの地

正家公は、近江水口城（みなくちじょう、滋賀県甲賀市）5万石を拝領し、豊臣政権五奉行の末席に名を連ねた豊臣恩顧の戦国大名である。その生家、長東氏館（滋賀県草津市）は、父・水口盛里（みなくちもりさと）の居城・水口城が落城したため、長東村に移住して長東氏を名乗り、同地に館を構えたのがその始まりと伝わる。

関ヶ原の戦い  
（傍観軍）



### デザインの由来

広島市民が愛する球団、広島東洋カープのホームグラウンドである広島市民球場周辺地区へ設置しています。このデザインは、カープ球団のロゴであるカープ坊やをモチーフに、来訪者が広島らしさを感じられるよう県の木の本モミジを配したデザインとしています。背景のストライプは、デザインした当時のカープのユニフォームの模様を意識したものです。(抜粋)



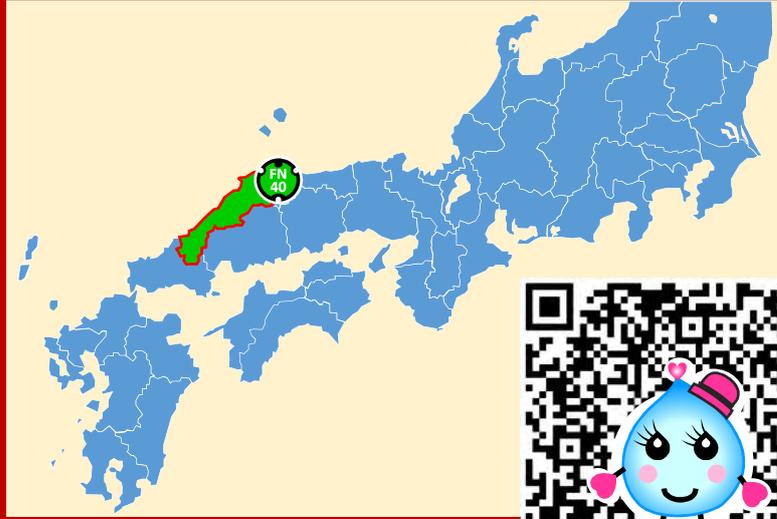
## 戦国 武将 安国寺恵瓊公

### ゆかりの地

広島市唯一の国宝・不動院(安国寺、広島県広島市)には、関ヶ原合戦後に京都で打首となった恵瓊の墓が残されている。恵瓊は、安芸(あき、広島県)武田氏の一族だったが、毛利氏に滅ぼされ、安国寺に入って出家した。その後、毛利氏に取り立てられて外交僧として豊臣家との交渉窓口を担い、豊臣政権下でも秀吉公から知行を貰って大名に取り立てられた。



関ヶ原の戦い  
(傍観軍)



### デザインの由来

ももひき姿に緋(かすり)の着物。鼻あてをつけ、頭には豆絞りの手ぬぐい。そして、腰に魚籠(びく)をぶら下げ、ザルを手にした「どじょうすくい」のオヤジを描いたデザインです。民謡・安来節に合わせて踊るとじょうすくいは、その名が示す通り、ザルでドジョウを掬う様子をユーモラスに表現した伝統芸能です。ぬるりと逃げられたり、ヒルにかまれたり、苦労して捕まえるドジョウ。捕まえた時の満面の笑みは、見る者を幸せな気分させます。(抜粋)



戦国  
武将

きっかわ ひろいえ

吉川広家公

### ゆかりの地

毛利家を支える広家公の手腕を高く評価した豊臣秀吉公は、出雲国東部、伯耆西部、隠岐に及ぶ14万石を与え、月山富田城(がっさんとだじょう、島根県安来市)に入るよう命じた。山陰の要衝地として歴代の出雲国守護職の居城であった月山富田城は、江戸時代の初めまで山陰の首城たる地位を失わなかった。



関ヶ原の戦い  
(傍観軍)



## デザインの由来

本市のシンボルである「錦帯橋」と「岩国城」を、伝統的な夏の風物詩である「鵜飼漁」と併せて描き、中心に市章を配置しました。錦帯橋は1673年の建造以来変わらぬ佇まいで、多くの人々を魅了してきました。幕末を描いたドラマなどでおなじみの篤姫が、嫁入りのために上京する途中に回り道をして岩国に立ち寄り、渡橋許可を待ちきれず強引に渡ってしまったという逸話があるほか、各地の大名たちも見学に訪れたという記録から、その美しさは当時から評判だったことが窺えます。(抜粋)

戦国  
武将

きっかわ ひろいえ

## 吉川広家公

## ゆかりの地

毛利家重臣の広家公は、関ヶ原の戦いを前に西軍総大将に就任した毛利輝元公及び毛利家の存続を計って東軍・徳川家康公に内通していた。しかし安芸(あき、広島県)国ほか山陽・山陰8か国の本領安堵は叶わず、防長(すおう、山口県)領国に減封となった。これにより吉川家は、本家一門の盾となる岩国3万石の所領が与えられて岩国領(山口県岩国市)の初代領主となった。

関ヶ原の戦い  
(傍観軍)

125

151

こうち

高知県

こうち

高知市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



### デザインの由来

中央には市章に「S(Sewage 下水の意味)」の入ったマーク、まわりに高知城、県の鳥・ヤイロチョウ、県の花・ヤマモモがデザインされています。ヤイロチョウは羽毛の色彩が8色で「幻の鳥」と呼ばれ、ヤマモモは梅雨時に暗紅色で甘酸っぱく美味しい実がなります。高知城は関ヶ原の戦い後、土佐24万石を襲封(しゅうほう)した初代土佐藩主山内一豊によって創建され、約400年余りの歴史を有する南海の名城です。



戦国  
武将

ちょうそかべ もりちか

長宗我部盛親公

### ゆかりの地

四国を統一した土佐の戦国大名・元親公は、豊臣政権下では土佐国岡豊城(おこうじょう、高知県南国市)主として臣従した。この時、本拠地を大高坂城(おおたかさやまじょう、高知城)に移そうと改修したが、低湿地の山麓での工事が難航し、代わりに港を臨む浦戸城(うらどじょう、高知県高知市)を大幅に改修して居城とした。



関ヶ原の戦い  
(傍観軍)

126

151

# コンクリート製の蓋

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

戦争により、鑄鉄が不足していたことから、コンクリートが使用されました。鉄筋コンクリートのふたの中央部に下水の文字を入れています。今は残っていません。

## 制定年度

昭和21年4月1日

127~130 / 151

すいめんのはもん

# 水面の波紋

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

清流乙川や矢作川の水面にできる波紋を幾何学模様デザインしたものです。このデザインを基にしているよく似たふたが数種類、岡崎市内に存在します。

## 制定年度

大正12年4月1日



取手がついたもの



受枠がちがうもの  
みかげ石を使った  
ものもある



波紋の形違い

131~134

151

おかざきじょう

ごまんごくふね

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり

# 岡崎城と五万石舟



## デザインの由来

岡崎市のシンボルである徳川家康公生誕の地「岡崎城」に、市の木「三河黒松」、それに五万石でも岡崎様は、お城下まで舟が着く・・・と謡われた「五万石舟」をデザインしたものです。

## 制定年度

昭和62年4月1日（岡崎市制70周年記念事業）



岡崎城



三河黒松

## 151 岡崎城と桜と花火



## デザインの由来

1987年に市制70周年を記念して、乙川南部地区用にデザインしました。この蓋に描かれているお城は、江戸幕府を開いた徳川家康公が生を受けた場所として知られる「岡崎城」です。

そして、前面には、全国桜の名所百選に選ばれた岡崎公園の「桜」、背景には岡崎の夏の風物詩でもある伝統の「三河花火」を描きました。

いにしえより東西交通の要衝として栄えた岡崎市。その悠久の歴史と伝統に育まれた魅力たっぷりのデザインになっています。

ちなみに、凹凸を反転したカラーデザインのマンホール蓋は、乙川リバーフロント地区（岡崎城周辺）限定で、2016年より設置されています。



岡崎城と桜



三河花火



矢作地区(H6~H18)  
全市(H19~)



### デザインの由来

安藤広重画による浮世絵「東海道五十三次 岡崎」で有名な徳川家康公生誕の地「岡崎城」と江戸時代日本一の長大橋として、橋の長さ二百八間（約378m）を誇った「矢作橋」をデザインしたものです。

矢作橋は、日吉丸（豊臣秀吉の幼名）と蜂須賀小六の出会いの橋として知られています。平成19年度の下水道工事から、全市域（旧額田町除く）で、このデザインのマンホール蓋が用いられています。

### 制定年度

平成6年4月1日



H19年度から使用の蓋



旧のふたは「やはぎばし」  
H19からは「やはぎはし」



六ツ美特定環境保全公共  
下水道地区

### デザインの由来

菜の花は一茎一花を愛でるより、群生で咲く様が美しいといわれています。早春、六ツ美地区の田園一帯に黄色に咲き乱れる菜の花を万華鏡に見立てて、幾何学模様と組み合わせてデザインしたものです。

### 制定年度

平成10年4月1日



菜の花

141・142 / 151

# ウグイスにクロガネモチ とササユリ

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



旧額田町  
(農業集落排水 豊南地区)



## デザインの由来

旧額田町の町の鳥である「ウグイス」、町の木である「クロガネモチ」、町の花である「ササユリ」をデザインしたものです。

## 制定年度

平成6年4月1日



143 / 151

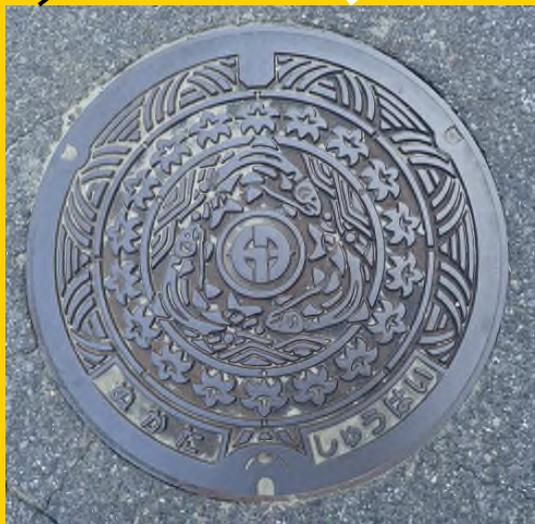
# アユとササユリ

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

山紫水明の地で清流に飛び跳ねる「アユ」と山に群生する「ササユリ」をモチーフにデザインしたものです。

## 制定年度

平成10年4月1日



## 宮崎地区

「ぬかた」の文字と中央部の旧額田町の町章がなくなっています

144

151

とうこう

## 橙灯(ランプホール)

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

マンホールのふたと同じく、水面にできる波紋を幾何学模様デザインしたものです。燈孔(ランプホール)は、下水道清掃用の明かりとともに換気用の空気をいれるためのマンホールで、建設費の縮減を図るための施設で、岡崎北部処理分区(440ha)内にのみ設置されています。

## 制定年度

大正12年4月1日

## 151 レッサーくん(消火栓)



## デザインの由来

岡崎市消防本部マスコットキャラクター「レッサーくん」のデザインを活用し、既存の消火栓蓋のデザインを令和3年にリニューアルしました。岡崎市内の小学校5・6年生及び中学生を対象にマスコットキャラクターデザインの募集を行い、選考した結果「レッサーくん」が誕生しました。

## 制定年度

令和3年10月

## 岡崎市消防本部マスコットキャラクター「レッサーくん」



岡崎の安全を守るため、やる気あられる新人隊員です。市の花である「さくら」を防火帽のマークにし、岡崎市に配備された消防車両「レッドサラマンダー」をモチーフにデザインされています。サラマンダーは火をつかさどる精霊であり、岡崎市消防本部のイメージに合致し、地域に寄り添い、岡崎市を笑顔と元気があられる街にしてほしいという思いが込められています。



### デザインの由来

2023年に岡崎市は下水道事業開始100周年を迎え、これを記念して製作したマンホール蓋です。蓋には岡崎市出身で「Kawaii」文化の原型を作ったアーティスト・内藤ルネ氏の美少女イラスト「ルネガール」をメインとして。徳川家康公が生を受けた岡崎城、伝統ある「三河花火」、日本桜名所100選・岡崎公園の桜がデザインされています。100周年記念ロゴには、同時に作られたキャッチコピー

「もっと伝えたい 下水道の力を」の願いも込められています。岡崎市で観光旅行を楽しむルネガール。あなたも「カワイイに出会えるまち、オカザキ」の特別なマンホール蓋に会いに来ませんか。



ルネマンホール



岡崎市 下水道事業



岡崎城と桜と花火

147 / 151

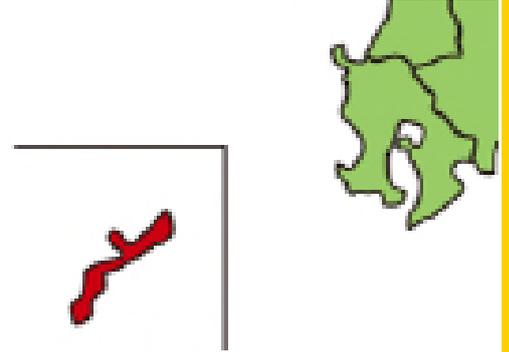
いしがき  
石垣市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

石垣市は、沖縄本島から400km余り南方に位置し、10の有人島からなる八重山諸島の政治、経済、交通、運輸の中心となっている、我が国最南西端の市であり、特産品であるパイナップル、マンゴー、石垣牛、八重山そばなどからは島のぬくもりを感じることができます。

このマンホール蓋は、市の鳥（市鳥）として特別天然記念物である「カンムリワシ」をデザインしています。カンムリワシというと、石垣市民栄誉賞受賞者である元プロボクサーの具志堅用高さんが現役時代に「カンムリワシ」の別名で呼ばれ、WBAライトフライ級王座を13度防衛し、日本人選手の世界王座最多防衛記録を現在も保持しています。



川平湾



パイナップル

148 / 151

ふくやま

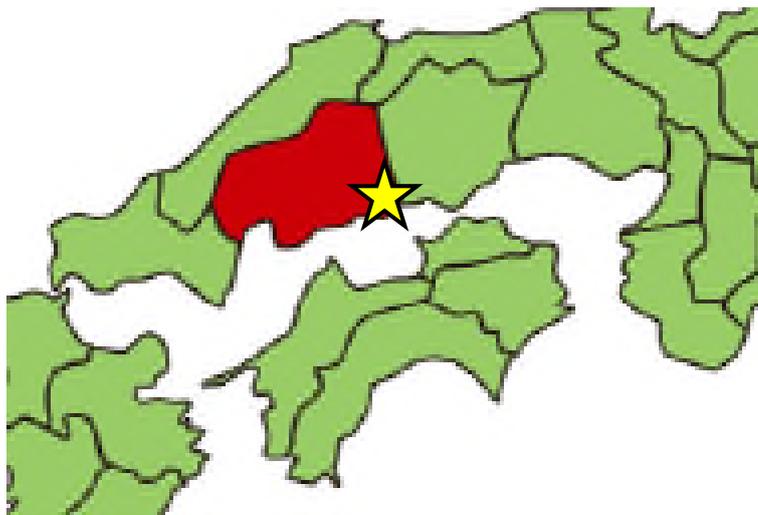
福山市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

福山市は、広島県の東部、岡山県との県境に位置し、瀬戸内海に面した人口約46万人の中核市であり、日本一の生産量を誇るデニムや、世界有数の製鉄所を有する鉄鋼業など優れた技術を持つ「ものづくり」のまちでもあります。

このマンホールは、福山城築城400年を記念して、広島カープとコラボして製作したものです。甲冑をまとったカープ坊やの背景に昨年鉄板張りを復元した福山城、その周りを飛び回っているのは蝙蝠です。また、カープ坊やがまとっている甲冑は、初代福山藩主であり、福山城を築城した、水野勝成公が関ヶ原の戦いの際に着用したとされているものです。



鞆の浦



ばら公園

149 / 151

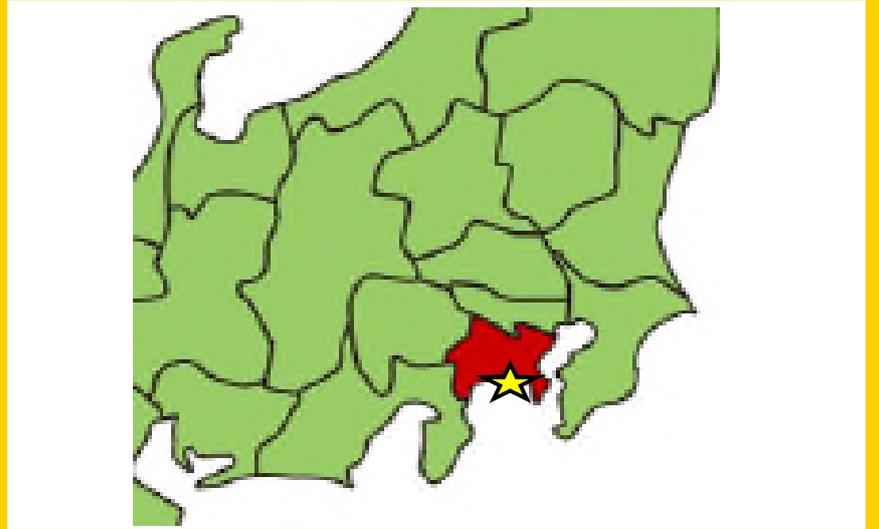
ちがさき  
茅ヶ崎市

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



## デザインの由来

茅ヶ崎の海と「烏帽子岩」を中心に、太陽とカモメ、漁船がデザインされたマンホール蓋です。「烏帽子岩」は正式名称を「姥島（うばじま）」といい、茅ヶ崎海岸の沖合約1.4 kmに位置し、高さは約14.6mあります。

烏帽子とは、その昔、公家や武士、神官がかぶっていた帽子の一種で、岩が烏帽子に似ていたことから、この名で呼ばれるようになったとされています。湘南を歌った歌の中にも数多く登場し、茅ヶ崎の普遍的なシンボルのひとつとなっています。

このマンホールデザインは1991年から使用されていますが、カードと同じカラー蓋が設置されたのは1997年からです。



茅ヶ崎サザンC



しらす

150 / 151

さく  
佐久市

全国

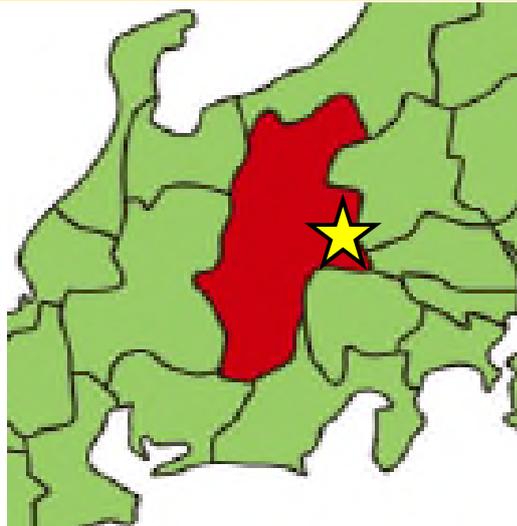
岡崎市

愛知県

ゆかり



©武論尊・原哲夫/コアミックス 1983



## デザインの由来

「北斗の拳」（漫画：原哲夫氏）は、佐久市出身の漫画原作者武論尊氏の代表作。マンホールデザインは武論尊氏が最も愛するキャラクター、「北斗四兄弟」の三男、ジャギ！！

ベースのデザインマンホール蓋は「北斗の拳」35周年を記念して製作された7種類の中の一つであり、北斗七星をかたどり佐久平駅蓼科口の歩道内に設置されています。

本蓋は、2023年に「北斗の拳」が40周年、佐久市下水道事業50周年を迎えたことから、デザインをリニューアルし製作されました。唯一のものであり、岡崎市と佐久市の友好の証として蓋の交換され、岡崎市のみで鑑賞することができます。



佐久バルーンフェスティバル



リンゴ

151 / 151

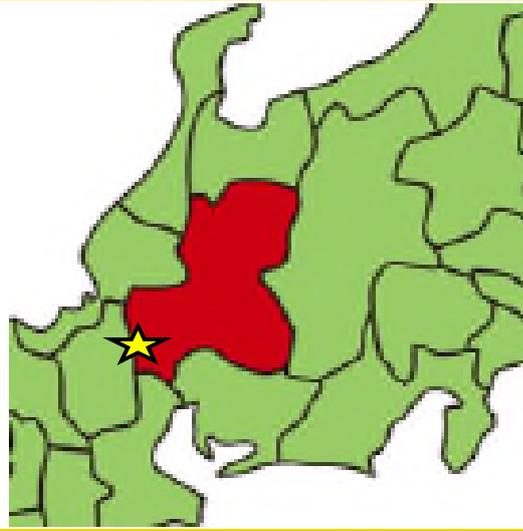
せきがほら  
関ヶ原町

全国

岡崎市

愛知県

ゆかり



**デザインの由来** 岐阜県関ヶ原町は、岐阜県の西南端に位置し、北に伊吹山地、南に鈴鹿山脈がせまる地形によって育まれた自然豊かな町です。

西暦1600年には、天下分け目の関ヶ原合戦が行われ、徳川家康公が勝利し、その後の泰平の世に繋がりました。関ヶ原合戦に関連する史跡は420年以上たった今もなお、数多く残されており、町のいたるところで歴史の息づきを感じることができます。

このマンホール蓋のデザインは、町の花のうめ、町の木のスズ、関ヶ原合戦にちなみ、兜をデザインしたものとなっています。町内の一部に色づけしたカラーマンホール蓋が設置してあります。



関ヶ原合戦祭り



いちご